

## ヨシュア記

## 第一章

主のしもべモーセが死んだ後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに言われた、「わたしはのしもべモーセは死んだ。それゆえ、今あなたと、このすべての民とは、共に立つて、このヨルダンを渡り、わたしがいすラエルの人々に与える地に行きなさい。三あなたにがたが、足の裏で踏む所はみな、わたしがモーセに約束したように、あなたがたに与えるであろう。四あなたがたの領域は、荒野からレバノンに及び、また大川ユフラテからヘビとの全地にわたり、日の入る方の大海に達するであろう。五あなたが生きながらえる日の間、あなたに当ることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にあるであろう。わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。六強く、また雄々しくあれ。あなたはこの民に、わたしが彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を獲させなければならぬ。七ただ強く、また雄々しくあつて、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲つてはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。八この律法の書をあなたの口か

ら離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。九わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。

一〇そこでヨシュアは民のつかさたちに命じて言った、「宿営のなかを巡って民に命じて言いなさい、『糧食の備えをしなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダンを渡って、あなたがたの神、主があなたがたに与えて獲させようとする地を獲るために、進み行かなければならないからである』」。

一一ヨシュアはまたルベンびと、ガドびと、およびマナセの半部族に言った、「一二主のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、主はあなたがたのために安息の場所を備え、この地をあなたがたに賜わるであろう』と言った言葉を記憶しなさい。一三あなたがたの妻子と家畜とは、モーセがあなたがたに与えたヨルダンのこちら側の地にとどまらなければならない。しかし、あなたがたのうちの勇士はみな武装して、兄弟たちの先に立って渡り、これを助けなければならない。一四そして主があなたがたに賜わったように、あなたがたの兄弟たちにも安息を賜わり、彼らもあなたがたの神、主が賜わる

地を獲得するようになるならば、あなたがたは、主のしもべモーセから与えられた、ヨルダンはこちら側、日の出の方にある、あなたがたの所有の地に帰って、それを保つことができるであろう。彼らはヨシュアに答えた、「あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。あなたがつかわれる所へは、どこへでも行きます。モわれわれはすべてのことをモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。ただ、どうぞ、あなたの神主がモーセと共におられたように、あなたと共にお願いしますように。ハだれであつても、あなたの命令にそむき、あなたの命じられる言葉に聞き従わないものがあれば、生かしてはおきません。ただ、強く、また雄々しくあつてください」。

## 第二章 ヌンの子ヨシュアは、シツテムから、

ひそかにふたりの斥候をつかわして彼らに言った、「行って、その地、特にエリコを探りなさい」。彼らは行って、名をラハブという遊女の家にはいり、そこに泊まったが、ニエリコの王に、「イスラエルの人々のうちの数名の者が今夜この地を探るために、はいつてきました」と言う者があつたので、ニエリコの王は人をやってラハブに言った、「あなたの所にきて、あなたの家にはいった人々をここへ出しなさい。彼らはこの国のすべてを探るためにきたのです。しかし、女はすでにそのふたりの人を入れたので、隠していた。そして彼女は言った、「確かにその

人々はわたしの所にきました。しかし、わたしはその人がどこからきたのか知りませんでした。五たそがれ時、門の閉じるころに、その人々は出て行きました。どこへ行ったのかわたしは知りません。急いであとを追いなさい。追いつけるでしょう。六その実、彼女はすでに彼らを連れて屋根にのぼり、屋上に並べてあつた亜麻の茎の中に彼らを隠していたのである。七そこでその人々は彼らのあとを追つてヨルダンの道を進み、渡し場へ向かつた。あとを追う者が出て行くとすぐ門は閉ざされた。八ふたりの人がまだ寝ないうち、ラハブは屋上にのぼつて彼らの所にきた。九そして彼らに言った、「主がこの地をあなたがたに賜わったこと、わたしたちがあなたがたをひじょうに恐れていること、そしてこの地の民がみなあなたがたの前に震えおののいていることをわたしは知っています。一〇あなたがたがエジプトから出てこられた時、主があなたがたの前で紅海の水を干されたこと、およびあなたがたが、ヨルダンの向こう側にいたアモリびとのふたりの王シホンとオグにされたこと、すなわちふたりを、全滅されたことを、わたしたちは聞いたからです。二わたしたちはそれを聞くと、心は消え、あなたがたのゆえに人々は全く勇気を失つてしまいました。あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられるからです。三それで、どうか、わたしがあなたがたを親切に扱つたように、あなたがたも、わたしの父

の家を親切に扱われることをいま主をさして誓い、確かなしるしをください。三そしてわたしの父母、兄弟、姉妹およびすべて彼らに属するものを生きながらえさせ、わたしたちの命を救って、死を免れさせてください。四ふたりの人は彼女に言った、「もしあなたがたが、われわれのこのことを他に漏らさないならば、われわれは命にかけて、あなたがたを救います。また主がわれわれにこの地を賜わる時、あなたがたを親切に扱い、真実をつくしましょう」。

五そこでラハブは綱をもって彼らを窓からつりおろした。その家が町の城壁の上に建っていて、彼女はその城壁の上に住んでいたからである。六ラハブは彼らに言った、「追手に会わないように、あなたがたは山へ行つて、三日の間そこに身を隠し、追手の帰つて行くのを待つて、それから去って行きなさい」。七ふたりの人は彼女に言った、「あなたがたがわれわれに誓わせたこの誓いについて、われわれは罪を犯しません。八われわれがこの地に討ち入る時、わたしたちをつりおろした窓に、この赤い糸のひもを結びつけ、またあなたの父母、兄弟、およびあなたの父の家族をみなあなたの家に集めなさい。九ひとりでも家の戸口から外へ出て、血を流されることがあれば、その責めはその人自身のこうべに帰すでしょう。われわれに罪はありません。しかしあなたの家の中にいる人に手をかけて血を流すことがあれば、その責めはわれわれのこうべに帰すでしょう。二〇またあなたが、われわれのこのことを他に漏らすならば、あなたがわれわれに誓わせた誓いについては、われわれに罪はありません。三ラハブは言った、「あなたがたの仰せのとおりにいたしましょう」。こうして彼らを送り出したので、彼らは去った。そして彼女は赤いひもを窓に結んだ。四彼らは立ち去って山にはいり、追手が帰るのを待つて、三日の間そこにとどまった。追手は彼らをあまねく道に捜したが、ついに見つけることができなかった。五こうしてふたりの人はまた山を下り、川を渡つて、又ンの子ヨシュアのもとにきて、その身に起ったことをつぶさに述べた。六そしてヨシュアに言った、「ほんとうに主はこの国をことごとくわれわれの手にお与えになりました。この国の住民はみなわれわれの前に震えおのいています」。

### 第三章

一ヨシュアは朝早く起き、イスラエルの人々すべてとともにシステムを出立して、ヨルダンに行き、それを渡らずに、そこに宿った。二三日の後、つかさたちは宿営の中を行き巡り、民に命じて言った、「レビびとである祭司たちが、あなたがたの神、主の契約の箱をかきあげるのを見るならば、あなたがたはその所を出立して、そのあとに従わなければならない。四そうすれば、あなたがたは行くべき道を知ることができるであろう。あなたがたは前にこの道をとったことがな

れわれのこうべに帰すでしょう。三またあなたが、われわれのこのことを他に漏らすならば、あなたがわれわれに誓わせた誓いについては、われわれに罪はありません。三ラハブは言った、「あなたがたの仰せのとおりにいたしましょう」。こうして彼らを送り出したので、彼らは去った。そして彼女は赤いひもを窓に結んだ。四彼らは立ち去って山にはいり、追手が帰るのを待つて、三日の間そこにとどまった。追手は彼らをあまねく道に捜したが、ついに見つけることができなかった。五こうしてふたりの人はまた山を下り、川を渡つて、又ンの子ヨシュアのもとにきて、その身に起ったことをつぶさに述べた。六そしてヨシュアに言った、「ほんとうに主はこの国をことごとくわれわれの手にお与えになりました。この国の住民はみなわれわれの前に震えおのいています」。



いからである。しかし、あなたがたと箱との間には、おおよそ二千キュビトの距離をおかなければならない。それに近づいてはならない」。五 ヨシュアはまた民に言った、「あなたがたは身を清めなさい。あす、主があなたがたのうちに不思議を行われるからである」。六 ヨシュアは祭司たちに言った、「契約の箱をかき、民に先立って渡りなさい」。そこで彼らは契約の箱をかき、民に先立って進んだ。

七 主はヨシュアに言われた、「きょうからわたしはすべてのイスラエルの前にあなたを尊い者とするであろう。こうしてわたしがモーセと共にいたように、あなたとともにあることを彼らに知らせるであろう。八 あなたは契約の箱をかく祭司たちに命じて言わなければならぬ、『あなたがたは、ヨルダンの水ぎわへ行くと、すぐ、ヨルダンの中に立ちとどまらなければならぬ』。九 ヨシュアはイスラエルの人々に言った、「あなたがたはここに近づいて、あなたがたの神、主の言葉を聞きなさい」。一〇そしてヨシュアは言った、「生ける神があなたがたのうちにおいでになり、あなたがたの前から、カナンびと、ヘベと、ヒビびと、ペリジびと、ギルガシびと、アモリびと、エブスびとを、必ず追い払われることを、次のことによつて、あなたがたは知るであろう。二 ごらん下さい。全地の主の契約の箱は、あなたがたに先立ってヨルダンを渡ろうとしている。三 それゆえ、今、イスラエ

ルの部族のうちから、部族ごとにひとりずつ、合わせて十二人を選びなさい。四 全地の主なる神の箱をかく祭司たちの足の裏が、ヨルダンの水の中に踏みとどまる時、ヨルダンの水は流れをせきとめられ、上から流れくだる水はとどまって、うず高くなるであろう」。

五 こうして民はヨルダンを渡ろうとして天幕をいで立ち、祭司たちは契約の箱をかき、民に先立って行ったが、六 箱をかく者がヨルダンにきて、箱をかく祭司たちの足が水ぎわにひたると同時に、——ヨルダンは刈入れの間中、岸一面にあふれるのであるが、——七 上から流れくだる水はとどまって、はるか遠くのザレタンのかたわらにある町アダムのあたりで、うず高く立ち、アラバの海すなわち塩の海の方に流れくだる水は全くせきとめられたので、民はエリコに向かつて渡った。八 すべてのイスラエルが、かわいた地を渡って行く間、主の契約の箱をかく祭司たちは、ヨルダンの中のかわいた地に立っていた。九 そしてついに民はみなヨルダンを渡り終った。

第四 章 一 民が皆、ヨルダンを渡り終った時、主はヨシュアに言われた、二 民のうちから、部族ごとにひとりずつ、合わせて十二人を選び、三 彼らに命じて言いなさい、『ヨルダンの中で祭司たちが足を踏みとどめた所の所から、石十二を取り、それを携えて渡り、今夜あなたがたが宿る場所にすえなさい』。四 そこでヨシュアはイスラエルの人々のうちから、部族ごとに、ひとりずつ、

かねて定めておいた十二人の者を召し寄せ、五ヨシュアは彼らに言った、「あなたがたの神、主の契約の箱の前に立って行き、ヨルダンの中に進み入り、イスラエルの人々の部族の数にしたがって、おのおの石一つを取り上げ、肩にのせて運びなさい。六これはあなたがたのうちに、しるしとなるであろう。後の日になって、あなたがたの子どもたちが、『これらの石は、どうしたわけですか』と問うならば、七その時あなたがたは彼らに、むかしヨルダンの水が、主の契約の箱の前で、せきとめられたこと、すなわちその箱がヨルダンを渡った時、ヨルダンの水が、せきとめられたことを告げなければならぬ。こうして、それらの石は永久にイスラエルの人々の記念となるであろう」。

八イスラエルの人々はヨシュアが命じたようにし、主がヨシュアに言われたように、イスラエルの人々の部族の数にしたがって、ヨルダンの中から十二の石を取り、それを携えて渡り、彼らの宿る場所へ行って、そこにすえた。九ヨシュアはまたヨルダンの中で、契約の箱をかく祭司たちが、足を踏みとどめた所に、十二の石を立てたが、今日まで、そこに残っている。一〇箱をかく祭司たちは、主がヨシュアに命じて、民に告げさせられた事が、すべて行われてしまうまで、ヨルダンの中に立っていた。すべてモーセがヨシュアに命じたとおりである。民は急いで渡った。二民がみな渡り終った時、主の箱

と祭司たちとは、民の見る前で渡った。三ルベンの子孫とガドの子孫、およびマナセの部族の半ばは、モーセが彼らに命じていたように武装して、イスラエルの人々に先立って渡り、三戦いのために武装したおおよそ四万の者が戦うため、主の前に渡って、エリコの平野に着いた。一四この日、主はイスラエルのすべての人の前にヨシュアを尊い者とされたので、彼らはみなモーセを敬ったように、ヨシュアを一生のあいだ敬った。

一五主はヨシュアに言われた、「一六あかしの箱をかく祭司たちに命じて、ヨルダンから上がったこさせなさい」。一七ヨシュアは祭司たちに命じて言った、「ヨルダンから上がったきなさい」。一八主の契約の箱をかく祭司たちはヨルダンの中から上がったが、祭司たちの足の裏がかわいた地にあがると同時に、ヨルダンの水はもとの所に流れかえって、以前のように、その岸にことごとくあふれた。

一九民は正月の十日に、ヨルダンから上がったきて、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。二〇そしてヨシュアは、人々がヨルダンから取ってきた十二の石をギルガルに立て、三イスラエルの人々に言った、「後の日にあなたがたの子どもたちが、その父に『これらの石は、どうしたわけですか』とたずねたならば、二三『むかしイスラエルがこのヨルダンを、かわいた地にされて渡ったのだ』と言って、その子どもたちに知らせなければならな

い。三すなわちあなたがたの神、主はヨルダンの水を、あなたがたのために干しからして、あなたがたを渡らせてくださった。それはあなたがたの神、主が、われわれのために紅海を干しからして、われわれを渡らせてくださったのと同じである。二画このようにされたのは、地のすべての民に、主の手に力のあることを知らせ、あなたがたの神、主をつねに恐れさせるためである。

## 第五章 ヨルダンの向こう側、すなわち西の方

方におるアモリびとの王たちと、海べにおるカナンびとの王たちとは皆、主がイスラエルの人々の前で、ヨルダンの水を干しからして、彼らを渡らせられたと聞いて、イスラエルの人々のゆえに、心は消え、彼らのうちにもはや元氣もなくなった。

二その時、主はヨシュアに言われた、「火打石の小刀を造り、重ねてまたイスラエルの人々に割礼を行いなさい」。三そこでヨシュアは火打石の小刀を造り、陽皮の丘で、イスラエルの人々に割礼を行った。四ヨシュアが人に割礼を行った理由はこうである。エジプトから出てきた民のうちの、すべての男子、すなわち、いくさびとたちは皆、エジプトを出た後、途中、荒野で死んだが、五その出てきた民は皆、割礼を受けた者であった。しかし、エジプトを出た後に、途中、荒野で生れた民は、みな割礼を受けていなかった。六イスラエルの人々は四十年の間、荒野を歩いていて、そのエジプトから出てきた

民、すなわち、いくさびとたちは、みな死に絶えた。これは彼らが主の声に聞き従わなかったので、主は彼らの先祖たちに誓って、われわれに与えたと仰せられた地、乳と蜜の流れる地を、彼らに見せないと誓われたからである。七ヨシュアが割礼を行ったのは、この人々について起されたその子どもたちであった。彼らは途中で割礼を受けていなかったので、無割礼の者であったからである。

八すべての民に割礼を行うことが終わったので、民は宿営のうちの自分の所にとどまって傷の直るのを待った。九その時、主はヨシュアに言われた、「きょう、わたしはエジプトのはずかしめを、あなたがたからころがし去った」。それでその所の名は、今日までギルガルと呼ばれている。

一〇イスラエルの人々はギルガルに宿営していたが、その月の十四日の夕暮、エリコの平野で過越の祭を行った。二そして過越の祭の翌日、その地の穀物、すなわち種入れぬパンおよびいり麦を、その日に食べたが、三その地の穀物を食べた翌日から、マナの降ることはやみ、イスラエルの人々は、もはやマナを獲なかった。その年はカナン地の産物を食べた。

三ヨシュアがエリコの近くにいたとき、目を上げて見ると、ひとりの人が抜き身のつるぎを手に持ち、こちらに向かって立っていたので、ヨシュアはその人のところ



へ行つて言った、「あなたはわれわれを助けるのですか。それともわれわれの敵を助けるのですか」。一四彼は言った、「いや、わたしは主の軍勢の将として今きたのだ」。ヨシュアは地にひれ伏し拝して言った、「わが主は何をしもべに告げようとされるのですか」。一五すると主の軍勢の将はヨシュアに言った、「あなたの足のくつを脱ぎなさい。あなたが立っている所は聖なる所である」。ヨシュアはそのようにした。

## 第六章 「さてエリコは、イスラエルの人々の

ゆえに、かたく閉ざして、出入りするものがなかった。二主はヨシュアに言われた、「見よ、わたしはエリコと、その王および大勇士を、あなたの手にわたしている。三あなたが見え、いくさびとはみな、町を巡って、町の周囲を一度回らなければならない。六日の間そのようにしなければならぬ。四七人の祭司たちは、おのおの雄羊の角のラッパを携えて、箱に先立たなければならない。そして七日目には七度町を巡り、祭司たちはラッパを吹き鳴らさなければならない。五そして祭司たちが雄羊の角を長く吹き鳴らし、そのラッパの音が、あなたがたに聞える時、民はみな大声に呼ばわり、叫ばなければならない。そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができぬ。六ヌンの子ヨシュアは祭司たちを召して言った、「あなたがたは契約の箱をかき、七人の祭司たちは雄羊の角のラッパ七本を

携えて、主の箱に先立たなければならない。七そして民に言った、「あなたがたは進んで行って町を巡りなさい。武装した者は主の箱に先立って進まなければならない」。八ヨシュアが民に命じたように、七人の祭司たちは、雄羊の角のラッパ七本を携えて、主に先立って進み、ラッパを吹き鳴らした。主の契約の箱はそのあとに従った。九武装した者はラッパを吹き鳴らす祭司たちに先立って行き、しんがりは箱に従った。ラッパは絶え間なく鳴り響いた。一〇しかし、ヨシュアは民に命じて言った、「あなたがたは呼ばわってはならない。あなたがたの声を聞えさせてはならない。また口から言葉を出してはならない。ただ、わたしが呼ばわれと命じる日に、あなたがたは呼ばわらなければならない」。二こうして主の箱を持つて、町を巡らせ、その周囲を一度回らせた。人々は宿営に帰り、夜を宿営で過ごした。三翌朝ヨシュアは早く起き、祭司たちは主の箱をかき、七人の祭司たちは、雄羊の角のラッパ七本を携えて、主の箱に先立ち、絶えず、ラッパを吹き鳴らして進み、武装した者はこれに先立って行き、しんがりも主の箱に従った。ラッパは絶え間なく鳴り響いた。四その次の日も、町の周囲を一度巡って宿営に帰った。六日の間そのようにした。五七日目には、夜明けに、早く起き、同じようにして、町を七度めぐった。町を七度めぐったのはこの日だけで

あった。二六七度目に、祭司たちがラッパを吹いた時、ヨシユアは民に言った、「呼ばわりなさい。主はこの町をあなたに賜わった。二七この町と、その中のすべてのものは、主への奉納物として滅ぼされなければならぬ。ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者はみな生かしておかなければならない。われわれが送った使者たちをかくまったからである。一八また、あなたがたは、奉納物に手を触れてはならない。奉納に当り、その奉納物をみずから取って、イスラエルの宿営を、滅ぼさるべきものとし、それを悩ますことのないためである。一九ただし、銀と金、青銅と鉄の器は、みな主に聖なる物であるから、主の倉に携え入れなければならない。二〇そこで民は呼ばわり、祭司たちはラッパを吹き鳴らした。民はラッパの音を聞くと同時に、みな大声をあげて呼ばわったので、石がきはくずれ落ちた。そこで民はみな、すぐに上って町にはいり、町を攻め取った。二一そして町にあるものは、男も、女も、若い者も、老いた者も、また牛、羊、ろばをも、ことごとくつるぎにかけて滅ぼした。

三三その時ヨシユアは、この地を探ったふたりの人に言った、「あの遊女の家にはいつて、その女と彼女に属するすべてのものを連れ出し、彼女に誓ったようにしなさい。三三斥候となったその若い人たちはいつて、ラハブとその父母、兄弟、そのほか彼女に属するすべてのものを連れ出し、その親族をみな連れ出して、イスラエル

の宿営の外に置いた。二四そして火で町とその中のすべてのものを焼いた。ただ、銀と金、青銅と鉄の器は、主の家の倉に納めた。二五しかし、遊女ラハブとその父の家の一族と彼女に属するすべてのものとは、ヨシユアが生かしておいたので、ラハブは今日までイスラエルのうちに住んでいる。これはヨシユアがエリコを探らせるためにつかわした使者たちをかくまったためである。

二六ヨシユアは、その時、人々に誓いを立てて言った、「おおよそ立って、このエリコの町を再建する人は、主の前にのろわれるであろう。

その礎をすえる人は長子を失い、その門を建てる人は末の子を失うであろう。二七主はヨシユアと共におられ、ヨシユアの名声は、あまねくその地に広がった。

第七章 一しかし、イスラエルの人々は奉納物について罪を犯した。すなわちユダの部族のうちの、ゼラの子ザブデの子であるカルミの子アカンが奉納物を取ったのである。それで主はイスラエルの人々にむかつて怒りを発せられた。

二ヨシユアはエリコから人々をつかわし、ベテルの東、ベテアベンの近くにあるアイに行かせようとして、その人々に言った、「上って行って、かの地を探ってきたさい」。人々は上って行って、アイを探したが、三ヨシユアのもとに帰ってきて言った、「民をことごとく行かせるに



は及びません。ただ二、三千人を上らせて、アイを撃たせなさい。彼らは少ないのですから、民をことごとくあそこへやってほねおりをさせるには及びません」。そこで民のうち、おおよそ三千人がそこに上ったが、ついにアイの人々の前から逃げ出した。五アイの人々は彼らのうち、おおよそ三十六人を殺し、更に彼らを門の前からシバリムまで追って、下り坂で彼らを殺したので、民の心は消えて水のようになった。

六そのためヨシュアは衣服を裂き、イスラエルの長老たちと共に、主の箱の前で、夕方まで地にひれ伏し、ちりをかぶった。七ヨシュアは言った、「ああ、主なる神よ、あなたはなにゆえ、この民にヨルダンを渡らせ、われわれをアモリびとの手に渡して滅ぼさせられるのですか。われわれはヨルダンの向こうに、安んじてとどまればよかったです。八ああ、主よ。イスラエルがすでに敵に背をむけた今となって、わたしはまた何を言い得ましよう。九カナンびと、およびこの地に住むすべてのものは、これを聞いて、われわれを攻めかこみ、われわれの名を地から断ち去ってしまうでしょう。それであなたは、あなたの偉なる名のために、何をしようとされるのですか。」

一〇主はヨシュアに言われた、「立ちなさい。あなたはど

彼らは奉納物を取り、盗み、かつ偽って、それを自分の所有物のうちに入れた。三それでイスラエルの人々は敵に当ることができず、敵に背をむけた。彼らも滅ぼされるべきものとなったからである。あなたがたが、その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから滅ぼし去るの

でなければ、わたしはもはやあなたがたとは共にいないであろう。二三立って、民を清めて言いなさい、『あなたがたは身を清めて、あすのために備えなさい。イスラエルの神、主はこう仰せられる、』イスラエルよ、あなたがたのうちに、滅ぼされるべきものがある。その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから除き去るまでは、敵に当ることはできないであろう。一四それゆえ、あすの朝、あなたがたは部族ごとに進み出なければならぬ。そして主がくじを当てられる部族は、氏族ごとに進みいで、主がくじを当てられる氏族は、家族ごとに進みいで、主がくじを当てられる家族は、男ひとりびとり進み出なければならぬ。一五そしてその滅ぼされるべきものを持っていて、くじを当てられた者は、その持ち物全部と共に、火で焼かれなければならない。主の契約を破りイスラエルのうちに愚かなことを行つたからである。一六こうしてヨシュアは朝早く起き、イスラエルを部族ごとに進み出させたところ、ユダの部族がくじに当り、一七ユダのもろもろの氏族を進み出させたところ、ゼラびとの氏族が、くじに当った。ゼラびとの氏族を家族ごと

に進み出させたところ、ザブテの家族が、くじに当った。  
 「ハザブテの家族を男ひとりびとり進み出させたところ、  
 アカンがくじに当った。アカンはユダの部族のうちの、  
 ゼラの子、ザブデの子なるカルミの子である。一九その時  
 ヨシュアはアカンに言った、「わが子よ、イスラエルの神、  
 主に栄光を帰し、また主をさんびし、あなたのしたこと  
 を今わたしに告げなさい。わたしに隠してはならない」。  
 二〇アカンはヨシュアに答えた、「ほんとうにわたしはイス  
 ラエルの神、主に対して罪を犯しました。わたしがした  
 のはこうです。三わたしはぶんどり物のうちに、シナル  
 の美しい外套一枚と銀二百シケルと、目方五十シケルの  
 金の延べ棒一本のあるのを見て、ほしくなり、それを取  
 りました。わたしの天幕の中に、地に隠してあります。  
 銀はその下にあります」。  
 三そこでヨシュアは使者たちをつかわした。使者たち  
 が天幕に走って行って見ると、それは彼の天幕に隠して  
 あって、銀もその下にあつた。三彼らはそれを天幕の中  
 から取り出して、ヨシュアとイスラエルのすべての人々  
 の所に携えてきたので、それを主の前に置いた。二四ヨ  
 シュアはすべてのイスラエルびとと共に、ゼラの子アカ  
 ンを捕え、かの銀と外套と金の延べ棒、および彼のむす  
 こ、娘、牛、ろば、羊、天幕など、彼の持ち物をことごとく  
 取って、アコルの谷へ引いていった。二五そしてヨ  
 シュアは言った、「なぜあなたはわれわれを悩ましたの

か。主は、きょう、あなたを悩まされるであらう」。や  
 がてすべてのイスラエルびとは石で彼を撃ち殺し、また  
 彼の家族をも石で撃ち殺し、火をもって焼いた。二六そし  
 てアカンの上に石塚を大きく積み上げたが、それは今日  
 まで残っている。そして主は激しい怒りをやめられたが、  
 このことによつて、その所の名は今日までアコルの谷と  
 呼ばれている。  
 第八章 一主はヨシュアに言われた、「恐れては  
 ならない、おののいてはならない。いくさびとを皆、率  
 い、立って、アイに攻め上りなさい。わたしはアイの王  
 とその民、その町、その地をあなたの手に授ける。二あ  
 なたは、さきにエリコとその王にしたとおり、アイとそ  
 の王としなければならぬ。ただし、ぶんどり物と家  
 畜とは戦利品としてあなたがたのものとすることができ  
 るであらう。あなたはまず、町のうしろに伏兵を置きな  
 さい」。  
 三ヨシュアは立って、すべてのいくさびとと共に、ア  
 イに攻め上ろうとして、まず大勇士三万人を選び、それ  
 を夜のうちにつかわした。四ヨシュアは彼らに命じて  
 言った、「あなたがたは町に向かつて、町のうしろに伏せ  
 ていなければならない。町を遠く離れないで、みな備え  
 をしていなければならない。五わたしとわたしに従う民  
 とは皆共に、町に攻め寄せよう。そして彼らが前のよう  
 にわれわれにむかつて出てくるとき、われわれは彼らの

前から逃げるであろう。六そうすれば彼らはわれわれを追って出てくるであろうから、われわれはついに彼らを町からおびき出すことができる。彼らは言うであろう、『この人々はまた前のように、われわれの前から逃げていく』。こうしてわれわれは彼らの前から逃げるであろう。七その時、あなたがたは伏せている所から立ち上がった、町を取らなければならぬ。あなたがたの神、主がそれをあなたがたの手に与えられるからである。八あなたがたが、町を取ったならば、町に火を放ち、主が命じられたようにしなければならぬ。わたしはこう、あなたがたに命じるのである。九そうしてヨシュアが彼らをつかわしたので、彼らはアイの西方、ベテルとアイの間の待ち伏せする場所に行つて身を伏せた。ヨシュアはその夜、民の中に宿った。

一〇ヨシュアは明るる朝、早く起きて、民を集め、イスラエルの長老たちと共に、民に先立つて、アイに上つていった。二彼と共にいたいくさびとたちもみな上つていって、町の前に近づき、アイの北に陣を取った。彼らとアイの間には、一つの谷があった。三ヨシュアはおおよそ五千人をとつて、町の西方、ベテルとアイの間に伏せておいた。四こうして民の主力を町の北におき、しんがりをついて町の西においた。ヨシュアはその夜、谷の中で宿った。五アイの王はこれを見て、すべての民と共に、急いで、早く起き、アラバに行く下り坂に進み出て、イ

スラエルと戦った。しかし、王は町のうしろに、すきをうかがう伏兵のおることを知らなかった。五ヨシュアはイスラエルのすべての人々と共に、彼らに打ち破られたふりをして、荒野の方向へ逃げだしたので、六その町の民はみな呼ばわり集まって彼らのあとを追ひ、ヨシュアのあとを追つて町からおびき出され、七アイにもベテルにも残つてゐるものはひとりもなく、みな出てイスラエルのあとを追ひ、町を開け放して、イスラエルのあとを追つた。

八その時、主はヨシュアに言われた、「あなたの手にあるなげやりを、アイの方にさし伸べなさい。わたしはその町をあなたの手に与えるであろう。そこでヨシュアが手にしていたなげやりを、アイの方にさし伸べると、九伏兵はたちまちその場所から立ち上がり、ヨシュアが手をのべると同時に、走つて町に入り、それを取つて、ただちに町に火をかけた。一〇それでアイの人々が、うしろをふり返つて見ると、町の焼ける煙が天に立ちのぼつていたので、こちらへもあちらへも逃げるすべがなかった。荒野へ逃げていった民も身をかえして、追つてきた者に追つた。三ヨシュアとすべてのイスラエルびとは、伏兵が町を取り、町の焼ける煙が立ち上るのを見て、身をかえしてアイの人々を撃つた。三また町を取つたものは町を出て彼らに向かつたので、彼らは、こちらとあちらとからイスラエルの中にはさまれた。こうしてイスラエル



びとが彼らを撃ったので、生き残ったもの、逃げおおせたものは、ひとりもなかった。三三そしてアイの王を生けどりにして、ヨシュアのもとへ連れてきた。

三四イスラエルびとは、荒野に追撃してきたアイの住民をことごとく野で殺し、つるぎをもつてひとりも残さず撃ち倒してのち、皆アイに帰り、つるぎをもつてその町を撃ち滅ぼした。三五その日アイの人々はことごとく倒れた。その数は男女あわせて一万二千人であった。三六ヨ

シュアはアイの住民をことごとく滅ぼしつくすまでは、なげやりをさし伸べた手を引っこめなかった。三七ただし、その町の家畜および、ぶんどり品はイスラエルびとが自分たちの戦利品として取った。主がヨシュアに命じられた言葉にしたがったのである。三八こうしてヨシュアはアイを焼いて、永久に荒塚としたが、それは今日まで荒地となつてゐる。三九ヨシュアはまた、アイの王を夕方まで木に掛けてさらし、日の入るころ、命じて、その死体を木から取りおろし、町の門の入口に投げすて、その上に石の大塚を積み上げさせたが、それは今日まで残つてゐる。

四〇そしてヨシュアはエバル山にイスラエルの神、主のために一つの祭壇を築いた。四一これは主のしもべモーセがイスラエルの人々に命じたことにもとづき、モーセの律法の書にしるされてゐるように、鉄の道具を当てない自然のままの石の祭壇であつて、人々はその上で、主に

燔祭をささげ、酬恩祭を供えた。四二その所で、ヨシュアはまたモーセの書きしるした律法を、イスラエルの人々の前で、石に書き写した。四三こうしてすべてのイスラエルびとは、本国人も、寄留の他国人も、長老、つかさびと、さばきびとと共に、主の契約の箱をかくレビびとである祭司たちの前で、箱のこなたとかなたに分れて、半ばはゲリジム山の前に、半ばはエバル山の前に立った。これは主のしもべモーセがさきに命じたように、イスラエルの民を祝福するためであつた。四四そして後、ヨシュアはすべて律法の書にしるされてゐる所にしたがつて、祝福と、のろいとに関する律法の言葉をことごとく讀んだ。

四五モーセが命じたすべての言葉のうち、ヨシュアがイスラエルの全会衆および女と子どもたち、ならびにイスラエルのうちに住む寄留の他国人の前で、讀まなかつたものは一つもなかった。

## 第九章

一さて、ヨルダンの西側の、山地、平地、およびレバノンまでの大海の沿岸に住むもろもろの王たち、すなわちヘベびと、アモリびと、カナンびと、ベリジびと、ヒビびと、エブスびとの王たちは、これを聞いて、二心を合わせ、相集まつて、ヨシュアおよびイスラエルと戦おうとした。

三しかし、ギベオンの住民たちは、ヨシュアがエリコとアイにおこなつたことを聞いて、四自分たちも策略をめぐらし、行つて食料品を準備し、古びた袋と、古びて

破れたのを繕ったぶどう酒の皮袋とを、ろばに負わせ、五繕った古びつを足にはき、古びた着物を身につけた。彼らの食料のパンは、みなかわいて、碎けていた。彼らはギルガルの陣営のヨシュアの所にきて、彼とイスラエルの人々に言った、「われわれは遠い国からまいりました。それで今われわれと契約を結んでください」。しかし、イスラエルの人々はそのヒビびとたちに言った、「あなたがたはわれわれのうちに住んでいるのかも知れないから、われわれはどうしてあなたがたと契約が結べましょう」。彼らはヨシュアに言った、「われわれはあなたのしもべです」。ヨシュアは彼らに言った、「あなたがたはだれですか。どこからきたのですか」。彼らはヨシュアに言った、「しもべどもはあなたの神、主の名のゆえに、ひじょうに遠い国からまいりました。われわれは主の名声、および主がエジプトで行われたすべての事を聞き、また主がヨルダンの向こう側にいたアモリびとのふたりの王、すなわちヘシボンの王シホン、およびアシタロテにおったバシヤンの王オグに行われたすべてのことを聞いたからです。そこで、われわれの長老たち、および国の住民はみなわれわれに言いました、『おまえたちは旅路の食料を手に携えていって、彼らに会って言いなさい、『われわれはあなたがたのしもべです。それで今われわれと契約を結んでください』。三ここにあるこのパンは、あなたがたの所に来るため、われわれが出立する日

に、おのおの家から、まだあたたかなのを旅の食料として準備したのですが、今はもうかわいて碎けています。三またぶどう酒を満たしたこれらの皮袋も、新しかったのですが、破れました。われわれのこの着物も、くつも、旅路がひじょうに長かったので、古びてしまいました」。四そこでイスラエルの人々は彼らの食料品を共に食べ、主のさしずを求めようとはしなかった。五そしてヨシュアは彼らと和を講じ、契約を結んで、彼らを生かしておいた。会衆の長老たちは彼らに誓いを立てた。六契約を結んで三日の後に、彼らはその人々が近くの人々で、自分たちのうちに住んでいるということを聞いた。七イスラエルの人々は進んで、三日目にその町々に着いた。その町々とは、ギベオン、ケビラ、ペエロテおよびキリアテ・ヤリムであった。八ところで会衆の長老たちが、すでにイスラエルの神、主をさして彼らに誓いを立てていたので、イスラエルの人々は彼らを殺さなかった。そこで会衆はみな、長老たちにむかつてつぶやいた。九しかし、長老たちは皆、全会衆に言った、「われわれはイスラエルの神、主をさして彼らに誓った。それゆえ今、彼らに触れてはならない。二〇われわれは、こうして彼らを生かしておこう。そうすれば、われわれが彼らに立てた誓いのゆえに、怒りがわれわれに臨むことはないであろう」。二一長老たちはまた人々に「彼らを生かしておこう」と言ったので、彼らはついに、全会衆のために、たきぎ

を切り、水をくむものとなった。長たちが彼らに言ったとおりである。

三ヨシュアは彼らを呼び寄せて言った、「あなたがたは、われわれのうちに住みながら、なぜ『われわれはあなたがたからは遠く離れている』と言って、われわれをだましたのか。三それであなたがたは今のわれ、奴隷となつてわたしの神の家のために、たぎぎを切り、水をくむものが、絶えずあなたがたのうちから出るであらう。二四彼らはヨシュアに答えて言った、「あなたの神、主がそのしもべモーセに、この地をことごとくあなたがたに与え、この地に住む民をことごとくあなたがたの前から滅ぼし去るやうにと、お命じになったことを、しもべどもは明らかに伝え聞きましたので、あなたがたのゆえに、命が危いと、われわれは非常に恐れて、このことをしたのです。二五われわれは、今、あなたの手のうちにあります。われわれにあなたがして良いと思ひ、正しいと思ふことをしてください。二六そこでヨシュアは、彼らにそのやうにし、彼らをイスラエルの人々の手から救つて殺させなかつた。二七しかし、ヨシュアは、その日、彼らを会衆のため、また主の祭壇のため、主が選ばれる場所で、たぎぎを切り、水をくむ者とした。これは今日までつづいてゐる。

第一〇章 エルサレムの王アドニゼデクは、ヨシュアがアイを攻め取つて、それを全く滅ぼし、さきに

エリコとその王とにしたやうに、アイとその王にもしたこと、またギベオンの住民が、イスラエルと和を講じて、そのうちにおることを聞き、二大いに恐れた。それは、ギベオンが大きな町であつて、王の都にもひとしいものであり、またアイより大きくて、そのうちの人々が、すべて強かつたからである。三それでエルサレムの王アドニゼデクは、ヘブロン王ホハム、ヤルムテ王ビラム、ラキシ王ヤピア、およびエグロンの王デビルに人をつかわして言った、四「わたしの所に上つてきて、わたしを助けてください。われわれはギベオンを撃ちましよう。ギベオンはヨシュアおよびイスラエルの人々と和を講じたからです。五アモリびとの五人の王、すなわちエルサレムの王、ヘブロン王、ヤルムテ王、ラキシ王、およびエグロン王は兵を集め、そのすべての軍勢を率いて上つてきて、ギベオンに向かつて陣を取り、それを攻めて戦つた。

六ギベオンの人々は、ギルガルの陣営に人をつかわし、ヨシュアに言った、「あなたの手を引かないで、しもべどもを助けてください。早く、われわれの所に上つてきて、われわれを救ひ、助けてください。山地に住むアモリびとの王たちがみな集まつて、われわれを攻めるからです。七そこでヨシュアはすべてのいくさびとと、すべての大勇士を率いて、ギルガルから上つて行つた。八その時、主はヨシュアに言われた、「彼らを恐れてはならな



い。わたしは彼らをあなたの手にわたしたからである。彼らのうちには、あなたに当ることのできるものは、ひとりもないであろう。九ヨシユアは、ギルガルから、よもすがら進みのぼって、にわかには彼らに攻めよせたとこる。一〇主は彼らを、イスラエルの前に、恐れあわてせられたので、イスラエルはギベオンで彼らをおびたたく撃ち殺し、ベテホロンの上り坂をとどめて逃げる彼らを、アゼカとマツケダまで追撃した。二彼らがイスラエルの前から逃げ走って、ベテホロンの下り坂をおりていた時、主は天から彼らの上に大石を降らし、アゼカにいたるまでもそうされたので、多くの人々が死んだ。イスラエルの人々がつるぎをもって殺したものよりも、雹に打たれて死んだもののほうが多かった。

三主がアモリびとをイスラエルの人々にわたされた日に、ヨシユアはイスラエルの人々の前で主にむかって言った、

「日よ、ギベオンの上にとどまれ、月よ、アヤロンの谷にやすらえ」。

四民がその敵を撃ち破るまで、日はとどまり、月は動かなかった。

これはヤシャルの書にしているではないか。日が天の中空にとどまって、急いで没しなかったこと、おおよそ一日であった。一四これより先にも、あとにも、主が

このように人の言葉を聞きいれられた日は一日もなかった。主がイスラエルのために戦われたからである。

二五こうしてヨシユアはイスラエルのすべての人と共にギルガルの陣営に帰った。

一六かの五人の王たちは逃げて行って、マツケダのほら穴に隠れたが、一七五人の王たちがマツケダのほら穴にかくれているのが見つかったと、ヨシユアに告げる者があつたので、一八ヨシユアは言った、「ほら穴の口に大石をころがし、そのそばに人を置いて、守らせなさい。一九ただし、あなたがたは、そこにとどまらないで、敵のあとを追ひ、そのしんがり撃ち、彼らをその町にはいらせなくてはならない。あなたがたの神、主が彼らをあなたがたの手に渡されたからである。二〇ヨシユアとイスラエルの人々は、大いに彼らを撃ち殺し、ついに彼らを滅ぼしつくしたが、彼らのうちのがれて生き残った者どもは、堅固な町々に逃げこんだので、三民はみな安らかにマツケダの陣営のヨシユアのもとに帰ってきたが、イスラエルの人々にむかって舌を鳴らす者はひとりもなかった。

二三その時ヨシユアは言った、「ほら穴の口を開いて、ほら穴から、かの五人の王たちを、わたしのもとにひき出しなさい」。二四やがて、そのようにして、かの五人の王たち、すなわち、エルサレムの王、ヘブロン王、ヤルムテ王、ラキシ王、およびエグロンの王を、ほら穴から彼のもとにひき出した。二五この王たちをヨシユアの

もとにひき出した時、ヨシュアはイスラエルのすべての人々を呼び寄せ、自分と共に行ったいくさびとの長たちに言った、「近寄って、この王たちのくびに足をかけなさい」。そこで近寄って、その王たちのくびに足をかけたので、二五ヨシュアは彼らに言った、「恐れおののいてはならない。強くまた雄々しくあれ。あなたがたが攻めて戦うすべての敵には、主がこのようにされるのである」。二六そして後ヨシュアは彼らを撃つて死なせ、五本の木にかけて、夕暮まで木の上にさらして置いたが、二七日の入るころになって、ヨシュアが命じたので、これを木からおろし、彼らが隠れていたほら穴に投げ入れ、ほら穴の口に大石を置いた。これは今日まで残っている。

二八その日ヨシュアはマツケダを取り、つるぎをもって、それと、その王とを撃ち、その中のすべての人を、ことごとく滅ぼして、ひとりも残さず、エリコの王にしたように、マツケダの王にもした。

二九こうしてヨシュアはイスラエルのすべての人を率いて、マツケダからリブナに進み、リブナを攻めて戦った。三〇主が、それと、その王をも、イスラエルの手に渡されたので、つるぎをもって、それと、その中のすべての人を撃ち滅ぼして、ひとりもその中に残さず、エリコの王にしたように、その王にもした。

三一ヨシュアはまたイスラエルのすべての人を率いて、リブナからラキシに進み、これに向かつて陣をしき、攻

め戦った。三二主がラキシをイスラエルの手に渡されたので、ふつか目にこれを取り、つるぎをもって、それと、その中のすべての人を撃ち滅ぼした。すべてリブナにしたとおりであった。

三三その時、ゲゼルの王ホラムが、ラキシを助けるために上ってきたので、ヨシュアは彼と、その民とを撃ち滅ぼして、ついにひとりも残さなかった。

三四ヨシュアはまたイスラエルのすべての人を率いて、ラキシからエグロンに進み、これに向かつて陣をしき、攻め戦った。三五その日これを取り、つるぎをもって、これを撃ち、その中のすべての人を、ことごとくその日に滅ぼした。すべてラキシにしたとおりであった。

三六ヨシュアはまたイスラエルのすべての人を率いて、エグロンからヘブロンに進み上り、これを攻めて戦い、三七それを取って、それと、その王、およびそのすべての町々と、その中のすべての人を、つるぎをもって撃ち滅ぼし、ひとりも残さなかった。すべてエグロンにしたとおりであった。すなわち、それとその中のすべての人を、ことごとく滅ぼした。

三八またヨシュアはイスラエルのすべての人を率いて、デビルへひきかえし、これを攻めて戦い、三九それと、その王、およびそのすべての町々を取り、つるぎをもってそれを撃ち、その中のすべての人を、ことごとく滅ぼし、ひとりも残さなかった。彼がデビルと、その王にしたこ

とは、ヘブロンにしたとおりであり、またリブナと、その王にしたとおりであった。

四〇 こうしてヨシュアはその地の全部、すなわち、山地、ネゲブ、平地、および山腹の地と、そのすべての王たちを撃ち滅ぼして、ひとりも残さず、すべて息のあるものは、ことごとく滅ぼした。イスラエルの神、主が命じられたとおりであった。四一 ヨシュアはカデシ・バルネアからガザまでの国々、およびゴセンの全地を撃ち滅ぼして、ギベオンにまで及んだ。四二 イスラエルの神、主がイスラエルのために戦われたので、ヨシュアはこれらすべての王たちと、その地をいちどきに取った。四三 そしてヨシュアはイスラエルのすべての人を率いて、ギルガルの陣営に帰った。

第一章 ハゾルの王ヤピンは、これを聞いて、マドンの王ヨバブ、シムロンの王、およびアクサフの王、また北の山地、キンネロテの南のアラバ、平地、西の方のドルの高地におる王たち、三すなわち、東西のカナンびと、アモリびと、ヘテびと、ペリジびと、山地のエブスびと、ミツパの地にあるヘルモンのおもとのヒビびとに使者をつかわした。四四 そして彼らは、そのすべての軍勢を率いて出てきた。その大軍は浜べの砂のように数多く、馬と戦車も、ひじょうに多かった。五 これらの王たちはみな軍を集め、進んできて、共にメロムの水のほとりに陣をしき、イスラエルと戦おうとした。

六 その時、主はヨシュアに言われた、「彼らのゆえに恐れてはならない。あすの今ごろ、わたしは彼らを皆イスラエルに渡して、ことごとく殺させるであらう。あなたは彼らの馬の足の筋を切り、戦車を火で焼かなければならない。七 そこでヨシュアは、すべてのいくさびとを率いて、にわかにメロムの水のほとりにおし寄せ、彼らを襲った。八 主は彼らをイスラエルの手に渡されたので、これを撃ち破り、大シドンおよびミスレポテ・マイムまで、これを追撃し、東の方では、ミツパの谷まで彼らを追いついにひとりも残さず撃ちとった。九 ヨシュアは主が命じられたとおりに彼らに行い、彼らの馬の足の筋を切り、戦車を火で焼いた。

一〇 その時、ヨシュアはひきかえして、ハゾルを取り、つるぎをもって、その王を撃った。ハゾルは昔、これらすべての国々の盟主であったからである。二 彼らはつるぎをもって、その中のすべての人を撃ち、ことごとくそれを滅ぼし、息のあるものは、ひとりも残さなかった。そして火をもってハゾルを焼いた。三 ヨシュアはこれらの王たちのすべての町々、およびその諸王を取り、つるぎをもって、これを撃ち、ことごとく滅ぼした。主のしもべモーセが命じたとおりであった。四 ただし、丘の上に立っている町々をイスラエルは焼かなかった。ヨシュアはただハゾルだけを焼いた。五 これらの町のすべてのぶんどり物と家畜とは、イスラエルの入々が戦利品とし



て取ったが、人はみなつるぎをもつて、滅ぼし尽し、息のあるものは、ひとりも残さなかった。二五主がそのしもべモーセに命じられたように、モーセはヨシュアに命じたが、ヨシュアはそのとおりにおこなった。すべて主がモーセに命じられたことで、ヨシュアが行わなかったことは一つもなかった。

二六こうしてヨシュアはその全地、すなわち、山地、ネゲブの全地、ゴセンの全地、平地、アラバならびにイスラエルの山地と平地を取り、二七セイルへ上って行く道のハラク山から、ヘルモン山のふもととのレバノンの谷にあるバアルガデまでを獲た。そしてそれらの王たちを、こことく捕えて、撃ち殺した。二八ヨシュアはこれらすべての王たちと、長いあいだ戦った。二九ギベオンに住民ヒビビとのほかに、イスラエルの人々と和を講じた町は一つもなかった。町々はみな戦争をして、攻め取ったものであった。三〇彼らが心をかたくなにして、イスラエルに攻めよせたのは、もともと主がそうさせられたので、彼らがのろわれた者となり、あわれみを受けず、ことごとく滅ぼされるためであった。主がモーセに命じられたとおりである。

三その時、ヨシュアはまた行って、山地、ヘブロン、デビル、アナブ、ユダのすべての山地、イスラエルのすべての山地から、アナクびとを断ち、彼らの町々をも共に滅ぼした。三三それでイスラエルの人々の地に、アナク

びとは、ひとりもいなくなった。ただガザ、ガテ、アシドドには、少し残っているだけであった。三三こうしてヨシュアはその地を、ことごとく取った。すべて主がモーセに告げられたとおりである。そしてヨシュアはイスラエルの部族にそれぞれの分を与えて、嗣業とさせた。こうしてその地に戦争はやんだ。

第一二章 一さてヨルダンの向こう側、日の出の方で、アルノンの谷からヘルモン山まで、および東アラバの全土のうちで、イスラエルの人々が撃ち滅ぼして地を取った国の王たちは、次のとおりである。二まず、アモリびとの王シホン。彼はヘシボンに住み、その領地は、アルノンの谷のほとりにあるアロエル、および谷の中の町から、ギレアドの半ばを占めて、アンモンびとの境であるヤボク川に達し、三東の方ではアラバをキンネレテの湖まで占め、またアラバの海すなわち塩の海の東におよび、ベテエシモテの道を経て、南はピスガの山のふもとに達した。四次にレバイムの生き残りのひとりであったバシヤンの王オグ。彼はアシタロテとエデレイとに住み、五ヘルモン山、サレカ、およびバシヤンの全土を領したので、ゲシウルびと、およびマアカびとと境を接し、またギレアドの半ばを領したので、ヘシボンの王シホンと境を接していた。六主のしもべモーセと、イスラエルの人々とが、彼らを撃ち滅ぼし、そして主のしもべモーセは、これらの地を、ルベンびと、ガドびと、お

よびマナセの半部族に与えて所有とさせた。

セヨルダンのこちら側、西の方にあって、レバノンの谷にあるバアルガデから、セイルへ上って行く道のハラク山までの間で、ヨシュアと、イスラエルの人々とが、撃ち滅ぼした国の王たちは、次のとおりである。ヨシュアは彼らの地をイスラエルの部族に、それぞれの分を与えて嗣業とさせた。これは、山地、平地、アラバ、山腹、荒野、およびネゲブであつて、ヘテびと、アモリびと、カナンびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとの所領であつた。九 エリコの王ひとり。ベテルのほとりのアイの王ひとり。一〇 エルサレムの王ひとり。ヘブロン王ひとり。一一 ヤルムテの王ひとり。ラキシの王ひとり。一二 エグロンの王ひとり。ゲゼル王ひとり。一三 デビルの王ひとり。ゲデル王ひとり。一四 ホルマ王ひとり。アラデ王ひとり。一五 リブナの王ひとり。アドラム王ひとり。一六 マツケダ王ひとり。ベテル王ひとり。一七 タツプアの王ひとり。ヘベル王ひとり。一八 アベクの王ひとり。シヤロンの王ひとり。一九 マドン王ひとり。ハゾルの王ひとり。二〇 シムロン・メロンの王ひとり。アサフ王ひとり。二一 タアナク王ひとり。メギド王ひとり。二二 ケデシ王ひとり。カルメル王ひとり。ヨクネアムの王ひとり。二三 ドルの高地にあるドル王ひとり。ガリラヤのゴイイムの王ひとり。二四 テルザ王ひとり。合わせて三十一王である。

第一三章 一 さてヨシュアは年が進んで老いたが、

主は彼に言われた、「あなたは年が進んで老いたが、取るべき地は、なお多く残っている。ニその残っている地は、次のとおりである。ペリシテびとの全地域、ゲシユルびとの全土、三 エジプトの東のシホルから北にのびて、カナンびとに属するといわれるエクロンの境までの地、ペリシテびとの五人の君たちの地、すなわち、ガザ、アシドド、アシケロン、ガテ、およびエクロン。四 南のアビびとの地、カナンびとの全地、シドンびとに属するメアラからアモリびとの境にあるアベクまでの部分。五 またヘルモン山のふもととのバアルガデからハマテの入口に至るゲバルびとの地、およびレバノンの東の全土。六 レバノンからミスレボテ・マイムまでの山地のすべての民、すなわちシドンびとの全土。わたしはみずから彼らをイスラエルの人々の前から追い払うであらう。わたしが命じたように、あなたはその地をイスラエルに分け与えて、嗣業とさせなければならぬ。七 すなわち、その地を九つの部族と、マナセの半部族とに分け与えて、嗣業とさせなければならぬ。」

八 マナセの他の半部族と共に、ルベンびとと、ガドびととは、ヨルダンの向こう側、東の方で、その嗣業をモーセから受けた。主のしもべモーセが、彼らに与えたのは、九 アルノンの谷のほとりにあるアロエル、および谷の中にある町から、デボンとメデバの間にある高原のす

べての地。<sup>二〇</sup>ヘシボンで世を治めた、アモリびとの王シホンのすべての町々を含めて、アンモンの人々の境までの地。<sup>二一</sup>ギレアデと、ゲシウルびと、ならびにマアカびとの領地、ヘルモン山の全土、サルカまでのバシヤン全体。<sup>二二</sup>アシタロテとエデレイで世を治めたバシヤンの王オグの全国。オグはレバイムの生き残りであった。モーセはこれらを撃つて、追ひ払った。<sup>二三</sup>ただし、イスラエルの人々は、ゲシウルびとと、マアカびととを追ひ払わなかった。ゲシウルびとと、マアカびとは、今日までイスラエルのうちに住んでいる。

<sup>二四</sup>ただレビの部族には、ヨシュアはなんの嗣業をも与えなかった。イスラエルの神、主の火祭が彼らの嗣業であるからである。主がヨシュアに言われたとおりである。

<sup>二五</sup>モーセはルベンびとの部族に、その家族にしたがって嗣業を与えたが、<sup>二六</sup>その領域はアルノンの谷のほとりにあるアロエル、および谷の中にある町からメデバのほとりのすべての高原、<sup>二七</sup>ヘシボンおよびその高原のすべての町々、デボン、バモテ・バアル、ベテ・バアル・メオン、<sup>二八</sup>ハヤハツ、ケデモテ、メバアテ、<sup>二九</sup>キリアタイム、シブマ、谷の中の山にあるゼレテ・シャハル、<sup>三〇</sup>ベテペオル、ピスガの山腹、ベテエシモテ、<sup>三一</sup>すなわち高原のすべての町々と、ヘシボンで世を治めたアモリびとの王シホンの全国に及んだ。モーセはシホンを、ミデアンのつかさたちエビ、レケム、ツル、ホルおよびレバと共に

撃ち殺した。これらはみなシホンの諸侯であつて、その地に住んでいた者である。<sup>三二</sup>イスラエルの人々はまたベオルの子、占い師バラムをもつるぎにかけて、そのほかに殺した者どもと共に殺した。<sup>三三</sup>ルベンびとの領域はヨルダンを境とした。これはルベンびとが、その家族にしたがって獲た嗣業であつて、その町々と村々を含む。

<sup>三四</sup>モーセはまたガドの部族、ガドの子孫にも、その家族にしたがって、嗣業を与えたが、<sup>三五</sup>その領域はヤゼル、ギレアデのすべての町々、アンモンびとの地の半ばで、ラバの東のアロエルまでの地。<sup>三六</sup>ヘシボンからラマテ・ミツパまでの地、およびベトニム、マハナイムからデビルの境までの地。<sup>三七</sup>谷の中ではベテハラム、ベテニムラ、スコテ、およびザボンなど、ヘシボンの王シホンの国の残りの部分。ヨルダンを境として、ヨルダンの東側、キンネレテの湖の南の端までの地。<sup>三八</sup>これはガドびとが、その家族にしたがって獲た嗣業であつて、その町々と村々を含む。

<sup>三九</sup>モーセはまたマナセの半部族にも、嗣業を与えたが、それはマナセの半部族が、その家族にしたがって与えられたものである。<sup>四〇</sup>その領域はマハナイムからバシヤンの全土に及び、バシヤンの王オグの全国、バシヤンにあるヤイルのすべての町々、すなわちその六十の町。<sup>四一</sup>またギレアデの半ば、バシヤンのオグの国の町であるアシタロテとエデレイ。これらはマナセの子マキルの子孫に



与えられた。すなわちマキルの子孫の半ばが、その家族にしたがって、それを獲た。

三三これらはヨルダンの向こう側、エリコの東のモアブの平野で、モーセが分け与えた嗣業である。三三ただし、レビの部族には、モーセはなんの嗣業をも与えなかった。イスラエルの神、主がその嗣業だからである。主がモーセに言われたとおりである。

第一 四章 イスラエルの人々が、カナンの地で受けた嗣業の地は、次のとおりである。すなわち、祭司エレアザル、ヌンの子ヨシュア、およびイスラエルの人々の部族の首長たちが、これを彼らに分ち、二主がモーセによって命じられたように、くじによって、これを九つの部族と、半ばの部族とに、嗣業として与えた。三これはヨルダンの向こう側で、モーセがすでに他の二つの部族と、半ばの部族とに、嗣業を与えていたからである。ただしレビびとには、彼らの中で嗣業を与えず、四ヨセフの子孫が、マナセと、エフライムの二つの部族となったからである。レビびとには土地の分け前を与えず、ただ、その住むべき町々および、家畜と持ち物とを置くための放牧地を与えたばかりであった。五イスラエルの人々は、主がモーセに命じられたようになって、その地を分けた。

六時に、ユダの人々がギルガルのヨシュアの所にきて、ケニズびとエフenneの子カレブが、ヨシュアに言った、

「主がカデシ・バルネアで、あなたとわたしについて、神の人モーセに言われたことを、あなたはごぞんじです。主のしもべモーセが、この地を探るために、わたしをカデシ・バルネアからつかわした時、わたしは四十歳でした。そしてわたしは、自分の信ずるところを復命しました。しかし、共に上って行った兄弟たちは、民の心をくじいてしまいましたが、わたしは全くわが神、主に従いました。九その日モーセは誓って、言いました、『おまえの足で踏んだ地は、かならず長くおまえと子孫との嗣業となるであろう。おまえが全くわが神、主に従ったからである』。二〇主がこの言葉をモーセに語られた時からこのかた、イスラエルが荒野に歩んだ四十五年の間、主は言われたように、わたしを生きながらえさせてくださいました。わたしは今日すでに八十五歳ですが、二今もなお、モーセがわたしをつかわした日のように、健やかです。わたしの今の力は、あの時の力に劣らず、どんな働きにも、戦いにも堪えることができます。三それで主があの日語られたこの山地を、どうか今、わたしにください。あの日あなたも聞いたように、そこにはアナキびとがいて、その町々は大きく堅固です。しかし、主がわたしと共にいられて、わたしはついには、主が言われたように、彼らを追い払うことができるでしょう」。

二三そこでヨシュアはエフenneの子カレブを祝福し、ヘbronを彼に与えて嗣業とさせた。二四こうしてヘbron

は、ケニズびとエフンネの子カレブの嗣業となつて、今日に至っている。彼が全くイスラエルの神、主に従つたからである。二五ヘブロンの名は、もとはキリアテ・アルパといつた。アルパは、アナキびとのうちの、最も大いなる人であつた。こうしてこの地に戦争はやんだ。

第一五章 ユダの人々の部族が、その家族にしたがつて、くじで獲た地は、南の方では、エドムの境に達し、南のはてにあるチンの荒野に及んでゐた。二その南の境は、塩の海の南の端の、入海から起り、三アクラビムの坂の南に出てチンに進み、カデシ・バルネアの南から上つて、ヘツロンに進み、アダルに上つていつて、カルカに回り、四アヅモンに進んで、エジプトの川に達し、その境は海に至つて尽きる。これが彼らの南の境である。五東の境は塩の海であつて、ヨルダンの川口に達する。北の方の境は、ヨルダンの川口の、入海から起り、六上つてベテホグラに行き、ベテアラバの北を過ぎ、上つてルベンびとボハンの石に達し、七またアコルの谷からデビルに上つて、北におもむき、川の南にあるアドミムの坂に対するギルガルに向かつて進み、エンシメシの水に達し、エンロゲルに至つて尽きる。八またその境はベシヒンノムの谷に沿つて、エブスびとの地、すなわちエルサレムの南のわきに上り、ヒンノムの谷の西にある山の頂に上る。これはレバインの谷の北の果にあるものである。九その境は、この山の頂からネフトアの水の源に

至り、その所からエフロン山の町々に及び、その境は曲つてバアラに達する。これは、すなわちキリアテ・ヤリムである。一〇その境は、バアラから西に回つて、セイル山に及び、ヤリム山、すなわちケサロンの北のわきを經て、ベテシメシに下り、テムナに進み、二エクロンの北の丘のわきに出て、シッケロンに曲り、バアラ山に進み、ヤブネルに達し、海に至つて尽きる。三また西の境は大海であつて、海岸を境とした。これがユダの人々の、その家族にしたがつて獲た地の四方の境である。

三ヨシュアは、主に命じられたように、エフンネの子カレブに、ユダの人々のうちで、キリアテ・アルパ、すなわちヘブロンを与えて、その分とさせた。アルパはアナクの父であつた。四カレブはその所から、アナクの子三人を追ひ払つた。すなわち、セシャイ、アヒマン、およびタルマイであつて、アナクから出たものである。五そして彼はこの所からデビルに住む民の所に攻め上つた。デビルの名は、もとはキリアテ・セベルといつた。六カレブは言つた、「キリアテ・セベルを撃つて、これを取る者には、わたしの娘アクサを妻として与えるであらう」。七ケナズの子で、カレブの弟オテニエルがそれを取つたので、カレブは娘アクサを、妻として彼に与えた。八彼女がとつぐ時、畑を父に求めるようにと、オテニエルに勧められた。そして彼女が、ろばから降りたので、カレブは彼女に、何を望むのかとたずねた。九彼女は答えて

言った、「わたしに贈り物をください。あなたはネゲブの地に、わたしをやられるのですから、泉をもください」。カレブは彼女に上の泉と下の泉とを与えた。

二〇ユダの人々の部族が、その家族にしたがって獲た嗣業は、次のとおりである。三ユダの人々の部族が、南でエドムの境の方にもっていた遠くの町々は、カブジエル、エデル、ヤグル、三キナ、デモナ、アダダ、三ケデシ、ハゾル、イテナン、二ジフ、テレム、ベアロテ、二五ハゾル・ハダツタ、ケリオテ・ヘズロンすなわちハゾル、二六アム、シマ、モラダ、二七ハザルガダ、ヘシモン、ベテベレテ、二八ハザル・シユアル、ベエルシバ、ビジヨテヤ、二九バアラ、イイム、エゼム、三〇エルトラデ、ケシル、ホルマ、三ニクラグ、マデマンナ、サンサンナ、三三レバオテ、シルヒム、アイン、リンモン。これらの町は合わせて二十九、ならびにそれに属する村々。

三三平地では、エシタオル、ゾラ、アシナ、三四ザノア、エンガンニム、タツプア、エナム、三五ヤルムテ、アドラム、ソコ、アゼカ、三六シヤアライム、アダタイム、ゲデラ、ゲデロタイム。すなわち十四の町々と、それに属する村々。

三七ゼナン、ハダシャ、ミグダルガデ、三八デラン、ミツパ、ヨクテル、三九ラキシ、ボヅカテ、エグロン、四〇カボシ、ラマム、キテリシ、四一ゲデロテ、ベテダゴン、ナアマ、マツケダ。すなわち十六の町々と、それに属する村々。

四二またリブナ、エテル、アシヤン、四三イフタ、アシナ、ネジブ、四四ケイラ、アクジブ、マレシヤ。すなわち九つの町々と、それに属する村々。

四五エクロンと、その町々、および村々。四六エクロンから海まで、すべてアシドドのほとりにある町々、およびそれに属する村々。

四七アシドドとその町々および村々。ガザとその町々および村々。エジプトの川と大海の海岸までが、その境であつた。

四八山地では、シャミル、ヤツテル、ソコ、四九ダンナ、キリアテ・サンナすなわちデビル、五〇アナブ、エシテモ、アニム、五一ゴセン、ホロン、ギロ。すなわち十一の町々と、それに属する村々。

五二アラブ、ドマ、エシヤン、五三ヤニム、ベテタツプアアベカ、五四ホムタ、キリアテ・アルバすなわちヘブロン、デオル。すなわち九つの町々と、それに属する村々。

五五マオン、カルメル、ジフ、ユッタ、五六エズレル、ヨクデアム、ザノア、五七カイン、ギベア、テムナ。すなわち十の町々と、それに属する村々。

五八ハルホル、ベテズル、ゲドル、五九マアラテ、ベテアノテ、エルテコン。すなわち六つの町々と、それに属する村々。

六〇キリアテ・パアルすなわちキリアテ・ヤリム、ラバ。これらの二つの町とそれに属する村々。



六二 荒野では、ベテアラバ、ミデン、セカカ、六ニブ  
 シャン、塩の町、エンゲデ。すなわち六つの町々と、そ  
 れに属する村々。

六三 しかし、ユダの人々は、エルサレムの住民エブスび  
 とを追ひ払うことができなかった。それでエブスびとは  
 今日まで、ユダの人々と共にエルサレムに住んでいる。

第一 六章 ヨセフの子孫が、くじによって獲た  
 地の境は、エリコのほとりのヨルダン、すなわちエリコ  
 の水の東から起つて、荒野に延び、エリコから山地に  
 上っている荒野を経て、ベテルに至り、ニベテルからル  
 ズにおもむき、アルキびとの領地であるアタロテに進み、  
 三 西に下つてヤフレテびとの領地に達し、下ベテホロン  
 の地域に及び、ゲゼルに達し、海に至つて尽きる。

四 こうしてヨセフの子孫のマナセと、エフライムとは、  
 その嗣業を受けた。

五 エフライムの子孫が、その家族にしたがつて獲た地  
 の境は、次のとおりである。彼らの嗣業の東の境は、ア  
 タロテ・アダルであつて、上ベテホロンに達し、六 その  
 境は、その所から海に及ぶ。北にはミクメタテがあり、  
 東ではその境はタアナテシロで曲り、進んでヤノアの東  
 に至り、セヤノアからアタロテとナアラに下り、エリコ  
 に達し、ヨルダンに至つて尽きる。ハタツプアからその  
 境は西に進んで、カナの川に達し、海に至つて尽きる。  
 これはエフライムの子孫の部族が、その家族にしたがつ

て獲た嗣業である。九 このほかにマナセの子孫の嗣業の  
 うちにも、エフライムの子孫のために分け与えられた町  
 町があつて、そのすべての町々と、それに属する村々を  
 獲た。一〇 ただし、ゲゼルに住むカナンびとを、追ひ払わ  
 なかったのに、カナンびとは今日までエフライムの中に  
 住み、奴隷となつて追ひ使われている。

第一 七章 マナセの部族が、くじによつて獲た  
 地は、次のとおりである。マナセはヨセフの長子であつ  
 た。マナセの長子で、ギレアデの父であるマキルは、軍  
 人であつたので、ギレアデとバシヤンを獲た。二 マナセ  
 の部族の他のものにも、その家族にしたがつて、地を与  
 えたが、それは、アビエゼル、ヘレク、アスリエル、シ  
 ケム、ヘベル、セミダで、これらはヨセフの子マナセの  
 男の子孫であつて、その家族にしたがつて、あげたもの  
 である。

三 しかし、マナセの子マキル、その子ギレアデ、その  
 子ヘベル、その子であつたゼロベハデには、女の子だけ  
 で、男の子がなかった。女の子たちの名は、マヘラ、ノ  
 ア、ホグラ、ミルカ、テルザといった。四 彼女たちは、  
 祭司エレアザル、ヌンの子ヨシュアおよび、つかさたち  
 の前に進み出て、「わたしたちの兄弟と同じように、わた  
 したちにも、嗣業を与えよと、主はモーセに命じおきに  
 なりました」と言つたので、ヨシュアは主の命にした  
 がつて、彼らの父の兄弟たちと同じように、彼女たちに

も嗣業を与えた。五 こうしてマナセはヨルダンの向こう側で、ギレアデとバシヤンの地のほかに、なほ十の部分を得た。六 マナセの娘たちが、男の子らと共に、嗣業を得たからである。ギレアデの地は、そのほかのマナセの子孫に分け与えられた。

七 マナセの獲た地の境は、アセルからシケムの東のミクメタデに及び、その境は南に延びて、エンタツプアの住民に達する。八 タツプアの地はマナセに属していたが、マナセの境にあるタツプアの町は、エフライムの子孫に属していた。九 またその境はカナの川に下って、川の南に至る。その町々はマナセの町々の中にあつて、エフライムに属した。マナセの境は、川の北に沿って進み、海に達して尽きる。一〇 その川の南の地は、エフライムに属し、北はマナセに属する。海がその境となる。マナセは北はアセルに接し、東はイッサカルに接する。二 マナセはまたイッサカルとアセルの中に、ベテシヤンとその村々、イブレアムとその村々、ドルの住民とその村々、エンドルの住民とその村々、タアナクの住民とその村々、メギドの住民とその村々を得た。このうち第三のものは高地である。三 しかし、マナセの子孫は、これらの町々を取る事ができなかった。四 カナンびとは長くこの地に住み続けようとした。五 しかし、イスラエルの人々が強くなるにしたがつて、カナンびとを役するようになり、ことごとく追い払うことはしなかった。

一四 ヨセフの子孫はヨシュアに言った、「主が今まで、わたしを祝福されたので、わたしは数の多い民となったのに、あなたはなぜ、わたしの嗣業として、ただ一つのくじ、一つの分だけを、くださったのですか」。一五 ヨシュアは彼らに言った、「もしあなたが数の多い民ならば、林に上つていつて、そこで、ペリジびとやレバイムびとの地を自分で切り開くがよい。エフライムの山地が、あなたがたには狭いのだから」。一六 ヨセフの子孫は答えた、「山地はわたしどもに十分ではありません。かつまた平地におけるカナンびとは、ベテシヤンとその村々におけるものも、エズレルの谷におけるものも、みな鉄の戦車を持っています」。一七 ヨシュアはまたヨセフの家、すなわちエフライムとマナセに言った、「あなたは数の多い民で、大きな力をもっています。それでただ一つのくじでは足りません。一八 山地をもあなたのものとしなければなりません。それは林ではあるが、切り開いて、向こうの端まで、自分のものとしなければなりません。カナンびとは鉄の戦車があつて、強くはあるが、あなたはそれを追い払うことができます」。

第一八章 「そこでイスラエルの人々の全会衆は、その地を征服したので、シロに集まり、そこに会見の幕屋を立てた。

二 その時、イスラエルの人々のうちに、まだ嗣業を分かち取らない部族が、七つ残っていたので、三 ヨシュア

はイスラエルの人々に言った、「あなたがたは、先祖の神、主が、あなたがたに与えられた地を取りに行くのを、いつまで怠っているのですか。部族ごとに三人ずつを出しなさい。わたしはその人々をつかわしましょう。彼らは立って行って、その地を行き巡り、おのおのの嗣業のために、それを図面にして、わたしのところへ持ってこなければならぬ。ユダは南のその領地にとどまり、ヨセフの家は北のその領地にとどまらなければならぬ。あなたがたは、その地を七つに分けて、図面にし、それをここに、わたしのところへ持ってこなければならぬ。わたしはここで、われわれの神、主の前に、あなたがたのために、くじを引くであろう。セレビびとは、あなたがたのうちに何の分をも持たない。主の祭司たることとが、彼らの嗣業だからである。またガドとルベンとマナセの半部族とは、ヨルダンの向こう側、東の方で、すでにその嗣業を受けた。それは主のしもべモーセが、彼らに与えたものである」。

そこでその人々は立って行った。その地の図面を作るために出て行く人々に、ヨシュアは命じて言った、「あなたがたは行って、その地を行き巡り、それを図面にして、わたしのところへ持って帰りなさい。わたしはシロで、主の前に、あなたがたのために、ここでくじを引きましょう」。こうしてその人々は行って、その地を経め

ぐり、町々にしたがって、それを七つの部分とし、図面にして、書物に書きしるし、シロの宿営におけるヨシュアのもとへ持ってきた。ヨシュアはシロで、彼らのために主の前に、くじを引いた。そしてヨシュアはその所で、イスラエルの人々に、それぞれの分として、地を分け与えた。

二 まずベニヤミンの子孫の部族のために、その家族にしたがって、くじを引いた。そしてそのくじによって獲た領地は、ユダの子孫と、ヨセフの子孫との間にあった。三すなわち、その北の方の境は、ヨルダンに始まり、エリコの北のわきに上り、また西の方の山地をとおって上り、ベテアベンの荒野に達して尽きる。三そこから、その境はルズに進み、ルズの南のわきに至る。ルズはベテルである。ついでその境は下ベテホロンの南の山にあるアタロテ・アダルに下り、西の方では、ベテホロンの南にある山から南に曲り、ユダの子孫の町キリアテ・バルに至って尽きる。キリアテ・バルはキリアテ・ヤリムである。これが西の方の境であった。一五また南の方の境は、キリアテ・ヤリムの端に始まり、その境はそこからエフロンにおもむき、ネフトアの水の源に至り、一六ついでその境は、レバイムの谷の北の端にあるベンヒンノムの谷を見おろす山の端に下り、進んでエブスびとのわきの南、ヒンノムの谷に下り、また下ってエンロゲルに至り、一七北に曲ってエンシメシにおもむき、アドミムの坂



に對するゲリロテにおもむき、ルベンびとボハンの石に下り、一八ベテアラバのわきを北に進んで、アラバに下り、一九その境は、ベテホグラの北のわきに進み、ヨルダンの南端で、塩の海の北の入海に至って尽きる。これが南の境である。二〇ヨルダンは東の方の境となっていた。これがベニヤミンの子孫の、その家族にしたがって獲た嗣業の四方の境である。

ニベニヤミンの子孫の部族が、その家族にしたがって獲た町々は、エリコ、ベテホグラ、エメクケジツ、三ベテアラバ、ゼマライム、ベテル、三アビム、バラ、オフラ、二四ケバル・アンモニ、オフニ、ゲバ。すなわち十二の町々と、それに属する村々。二五またギベオン、ラマ、ベエロテ、二六ミツバ、ケビラ、モザ、二七レケム、イルピエル、タララ、二八ゼラ、エレフ、エブスすなわちエルサレム、ギベア、キリアテ・ヤリム。すなわち十四の町々と、それに属する村々。これがベニヤミンの子孫の、その家族にしたがって獲た嗣業である。

**第一章** 次にシメオンのため、すなわちシメオンの子孫の部族のために、その家族にしたがって、くじを引いた。その嗣業はユダの子孫の嗣業のうちにあった。二その嗣業として獲たものは、ベエルシバ、すなわちシバ、モラダ、三ハザル・シユアル、バラ、エゼム、四エルトラデ、ベトル、ホルマ、五チクラグ、ベテ・マルカボテ、ハザルスサ、六ベテレバオテ、シャルヘン。

すなわち十三の町々と、それに属する村々。七またアイン、リンモン、エテル、アシャン。すなわち四つの町々と、それに属する村々。八およびこれらの町の周囲にあつて、バアラテ・ベエル、すなわちネゲブのラマに至るまでのすべての村々。これがシメオンの子孫の部族の、その家族にしたがって獲た嗣業である。九シメオンの子孫の嗣業は、ユダの子孫の領地のうちにあつた。これはユダの子孫の分が大きかったので、シメオンの子孫が、その嗣業を彼らの嗣業の中に獲たからである。

一〇第三にゼブルンの子孫のために、その家族にしたがって、くじを引いた。その嗣業の領域はサリデに及び、二その境は西に上つて、マララに至り、ダバセテに達し、ヨクネアムの東にある川に達し、三サリデから、東の方、日の出の方に曲り、キスロテ・タボルの境に至り、ダベラテに出て、ヤビアに上り、三そこから東の方、日の出の方に進んで、ガテヘベルとイッタ・カジンに至り、リンモンに進んで、ネアの方に曲る。四北ではその境はハシナトンに回り、イフタエルの谷に至って尽きる。五そしてカッタテ、ナハラル、シムロン、イダラ、ベツレヘムなど十二の町々と、それに属する村々があつた。六これがゼブルンの子孫の、その家族にしたがって獲た嗣業であつて、その町々と、それに属する村々とである。

七第四にイッサカル、すなわちイッサカルの子孫のために、その家族にしたがって、くじを引いた。八その領

域には、エズレル、ケスロテ、シユネム、一九ハバライム、シオン、アナハラテ、二〇ラビテ、キシヨン、エベツ、ミレメテ、エンガンニム、エンハダ、ベテパッゼズがあり、三その境はタボル、シャハヂマ、ベテシメシに達し、その境はヨルダンに至って尽きる。十六の町々と、それに属する村々があった。三三これがイッサカルの子孫の部族の、その家族にしたがって獲た嗣業であって、その町町と、それに属する村々である。

二四第五に、アセルの子孫の部族のために、その家族にしたがって、くじを引いた。二五その領域には、ヘルカテ、ハリ、ベテン、アクサフ、二六アランメレク、アマデ、ミシャルがあり、その境は西では、カルメルとシホル・リブナテに達し、二七それから東に折れて、ベテダゴンに至り、北の方ゼブルンと、イプタエルの谷に達し、ベテエメクおよびネイエルに至り、北はカブルにいで、二八更にエブロン、レホブ、ハンモン、カナを経て、大シドンに及び、二九それから、その境はラマに曲り、堅固な町ツロに至る。またその境はホサに曲り、海に至って尽きる。そして、マハラブ、アクジブ、三〇ウンマ、アベク、レホブなど、二十二の町々と、それに属する村々があった。三三これがアセルの子孫の部族の、その家族にしたがって獲た嗣業であって、その町々と、それに属する村々である。

三三第六に、ナフタリの子孫のために、その家族にした

がって、くじを引いた。三三その境はヘレフから、すなわちザアナニイムのかしの木から起り、アダミ・ネケブおよび、ヤブネルを経て、ラクムに至り、ヨルダンに至って尽きる。三四そしてその境は西に向かつて、アズノテ、タボルに至り、そこからホツコクに出る。南はゼブルンに接し、西はアセルに接し、東はヨルダンのユダに達する。三五その堅固な町々は、ヂデム、ゼル、ハンマテ、ラツカテ、キンネレテ、三六アダマ、ラマ、ハゾル、三七ケデシ、エデレイ、エンハゾル、三八イロン、ミグダルエル、ホルム、ベテアナテ、ベテシメシなどで、十九の町々と、それに属する村々があった。三九これがナフタリの子孫の部族が、その家族にしたがって獲た嗣業であって、その町町と、それに属する村々である。

四〇第七に、ダンの子孫の部族のために、その家族にしたがって、くじを引いた。四一その嗣業の領域には、ゾラ、エシタオル、イルシメシ、四二シヤラビム、アヤロン、イテラ、四三エロン、テムナ、エクロン、四四エルテケ、ギベトン、バアラテ、四五エホデ、ベネベラク、ガテリンモン、四六メヤルコン、ラツコン、およびヨツパと相對する地域があった。四七ただし、ダンの子孫の領域は、彼らのために小さかったので、ダンの子孫は、上って行き、レセムを攻めてそれを取り、つるぎにかけて撃ち滅ぼし、それを獲てそこに住み、先祖ダンの名にしたがって、レセムをダンと名づけた。四八これがダンの子孫の部族の、その

家族にしたがって獲た嗣業であつて、その町々と、それに属する村々とである。

四九 こうして国の各地域を嗣業として分け与えることを終つたとき、イスラエルの人々は、自分たちのうちに、一つの嗣業を、ヌンの子ヨシユアに与えた。五〇 すなわち、主の命に従つて、彼が求めた町を与えたが、それはエフライムの山地にあるテムナテ・セラであつて、彼はその町を建てなおして、そこに住んだ。

五一 これらは、祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユア、およびイスラエルの子孫の部族の族長たちが、シロにおいて会見の幕屋の入口で、主の前に、くじを引いて分け与えた嗣業である。こうして地を分けることを終つた。

第二〇章 「そこで主はヨシユアに言われた、

「イスラエルの人々に言いなさい、『先にわたしはモーセによつて言つておいた、のがれの町を選び定め、三あやまつて、知らずに人を殺した者を、そこへのがれさせなさい。これはあなたがたが、あだを討つ者をさけて、のがれる場所となるでしょう。四 その人は、これらの町の一つにのがれて行つて、町の門の入口に立ち、その町の長老たちに、そのわけを述べなければならぬ。そうすれば、彼らはその人を町に受け入れて、場所を与え、共に住ませるであらう。五 たとい、あだを討つ者が追つてきても、人を殺したその者を、その手に渡してはならない。彼はあやまつて隣人を殺したのであつて、もとから

それを憎んでいたのではないからである。六 その人は、会衆の前に立つて、さばきを受けるまで、あるいはその時の大祭司が死ぬまで、その町に住まなければならぬ。そして後、彼は自分の町、自分の家に帰つて行つて、逃げ出してきたその町に住むことができる。』

七 そこで、ナフタリの山地にあるガリラヤのケデシ、エフライムの山地にあるシケム、およびユダの山地にあるキリアテ・アルバすなわちヘブロンを、これがために選び分かち、八 またヨルダンの向こう側、エリコの東の方では、ルベンの部族のうちから、高原の荒野にあるベゼル、ガドの部族のうちから、ギレアデのラモテ、マナセの部族のうちから、バシヤンのゴランを選び定めた。九 これらは、イスラエルのすべての人々、およびそのうちに寄留する他国人のために設けられた町々であつて、すべて、あやまつて人を殺した者を、そこにのがれさせ、会衆の前に立たないうちに、あだを討つ者の手にかかつて死ぬことのないようにするためである。

第二一章 「時にレビの族長たちは、祭司エレア

ザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの部族の族長たちのもとにきて、ニカナンの地のシロで彼らに言つた、  
「主はかつて、われわれに住むべき町々を与えることと、それに属する放牧地を、家畜のために与えることを、モーセによつて命じられました。三 それでイスラエルの人々は、主の命にしたがって、自分たちの嗣業のうちか



ら、次の町々と、その放牧地とを、レビびとに与えた。

四まずコハテびとの氏族のために、くじを引いた。祭司アロンの子孫であるこれらのレビびとは、くじによって、ユダの部族、シメオンの部族、およびベニヤミンの部族のうちから、十三の町を獲た。

五その他のコハテびとは、くじによって、エフライムの部族の氏族、ダン、およびマナセの半部族のうちから、十の町を獲た。

六またゲルシヨンびとは、くじによって、イッサカルの部族の氏族、アセルの部族、ナフタリの部族、およびバシヤンにあるマナセの半部族のうちから、十三の町を獲た。

七またメラリびとは、その氏族にしたがつて、ルベンの部族、ガドの部族、およびゼブルンの部族のうちから、十二の町を獲た。

八イスラエルの人々は、主がモーセによって命じられたとおり、これらの町と、その放牧地とを、くじによって、レビびとに与えた。

九まずユダの部族と、シメオンの部族のうちから、次に名をあげる町々を与えた。一〇これらはレビびとに属するコハテびとの氏族の一つである、アロンの子孫に与えられた。最初のくじが彼らに当たったからである。二すなわちユダの山地にあるキリアテ・アルパすなわちヘbron およびその周囲の放牧地を彼らに与えた。このアルパ

はアナクの父であった。三ただし、この町の畑と、それに属する村々とは、すでにエフenneの子カレブが、それを受けて所有していた。

二三祭司アロンの子孫に与えたのは、人を殺した者の、のがれる町であるヘブロンとその放牧地、リブナとその放牧地、一四ヤツテルとその放牧地、エシテモアとその放牧地、一五ホロンとその放牧地、デビルとその放牧地、一六アインとその放牧地、ユッタとその放牧地、ベテシメシとその放牧地など、九つの町であつて、この二つの部族のうちから分け与えたものである。一七またベニヤミンの部族のうちから、ギベオンとその放牧地、ゲバとその放牧地、一八アナトテとその放牧地、アルモンとその放牧地など、四つの町を与えた。一九アロンの子孫である祭司たちの町は、合わせて十三であつて、それに属する放牧地があつた。

二〇その他のコハテびとであるレビびとの氏族は、くじによつて、エフライムの部族のうちから町を獲た。三すなわち、その町は、人を殺したものの、のがれる町であるエフライムの山地のシケムとその放牧地、ゲゼルとその放牧地、三キブザイムとその放牧地、ベテホロンとその放牧地など、四つの町である。二三またダンの部族のうちから分け与えた町は、エルテケとその放牧地、ギベトンとその放牧地、二四アヤロンとその放牧地、ガテリンモンとその放牧地など、四つの町である。二五またマナセ

の半部族のうちから分け与えた町は、タアナクとその放牧地、およびガテリンモンとその放牧地など、二つの町である。二六その他のコハテびとの氏族の町は、合わせて十であつて、それに属する放牧地があつた。

二七ゲルシヨンびとであるレビびとの氏族の一つに与えられた町は、マナセの半部族のうちからは、人を殺した者の、のがれる町であるバシヤンのゴランとその放牧地、およびベエシテラとその放牧地など、二つの町である。

二八イスサカル部族のうちからは、キシヨンとその放牧地、ダベラテとその放牧地、二九ヤルムテとその放牧地、

エンガンニムとその放牧地など、四つの町である。三〇アセルの部族のうちからは、ミシャルとその放牧地、アブ

ドンとその放牧地、ミヘルカテとその放牧地、レホブとその放牧地など、四つの町である。三ナフタリの部族の

うちからは、人を殺した者の、のがれる町であるガリラヤのケデシとその放牧地、ハンモテ・ドルとその放牧地、

カルタンとその放牧地など、三つの町である。三二ゲルシヨンびとが、その氏族にしたがって獲た町は、合わせ

て十三の町であつて、それに属する放牧地があつた。

三三その他のレビびとである、メラリびとの氏族に与えられた町は、ゼブルンの部族のうちからは、ヨクネアム

とその放牧地、カルタとその放牧地、三四デムナとその放牧地、ナハラルとその放牧地など、四つの町である。三六ルベンの部族のうちからは、ベゼルとその放牧地、ヤ

ハツとその放牧地、三七ケデモテとその放牧地、メバアテとその放牧地など、四つの町である。三八ガドの部族のうちからは、人を殺した者の、のがれる町であるギレアデのラモテとその放牧地、マハナイムとその放牧地、三九ヘシボンとその放牧地、ヤゼルとその放牧地など、合わせて四つの町である。四〇これらはみな、ほかのレビびとであるメラリびとが、その氏族にしたがって、くじをもつて獲た町であつて、合わせて十二であつた。

四一イスラエルの人々の所有のうちに、レビびとが持つた町々は、合わせて四十八であつて、それに属する放牧地があつた。四二これらの町々は、それぞれその周囲に放牧地があつた。これらの町々はみなそうであつた。

四三このように、主が、イスラエルに与えたと、その先祖たちに誓われた地を、ことごとく与えられたので、彼らはそれを獲て、そこに住んだ。四四主は彼らの先祖たちに誓われたように、四方に安息を賜わたしたので、すべての敵のうち、ひとりも彼らに手向かう者はなかつた。主が敵をことごとく彼らの手に渡されたからである。四五主がイスラエルの家に約束されたすべての良いことは、一つとしてたがわず、みな実現した。

第二章 一時にヨシュアは、ルベンびと、ガドびと、およびマナセの部族の半ばを呼び集めて、二言つた、「あなたがたは主のしもべモーセが命じたことを、ことごとく守り、またわたしの命じたすべての事にも、わ

たしの言葉に聞きしたがいました。三 今日まで長い年月の間、あなたがたの兄弟たちを捨てず、あなたがたの神の主の命令を、よく守ってきました。四 今はすでに、あなたがたの神、主が、あなたがたの兄弟たちに、先に約束されたとおり、安息を賜わるようになりました。それで、あなたがたは身を返して、主のしもべモーセが、あなたがたに与えたヨルダンの向こう側の所有の地に行き、自分たちの天幕に帰りなさい。五 ただ主のしもべモーセが、あなたがたに命じた戒めと、律法とを慎んで行い、あなたがたの神、主を愛し、そのすべての道に歩み、その命令を守って、主につき従い、心をつくし、精神をつくして、主に仕えなさい。六 そしてヨシュアが彼らを祝福して去らせたので、彼らはその天幕に帰った。

七 マナセの部族の半ばには、すでにモーセがバシヤンで所有地を与えたが、他の半ばには、ヨシュアがヨルダンのこちら側、西の方で、その兄弟たちのうちに、所有地を与えた。ヨシュアは、彼らをその天幕に送りかえす時、彼らを祝福して、八 言った、「あなたがたは多くの貨財と、おびただしい数の家畜と、金、銀、青銅、鉄、および多くの衣服を持って天幕に帰り、敵から獲たぶんどり物を兄弟たちに分けなさい。九 こうしてルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの部族の半ばは、主がモーセによって命じられたように、すでに自分の所有地となっているギレアデの地に行こうと、カナンの地のシロで、

イスラエルの人々と別れて帰って行った。

一〇 ルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの部族の半ばが、カナンの地のヨルダンのほとりにきた時、その所で、ヨルダンの岸べに一つの祭壇を築いた。それは大きくて遠くから見える祭壇であった。二 イスラエルの人々は、「ルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの部族の半ばが、カナンの地の国境、ヨルダンのほとりのイスラエルの人々に属する方で、一つの祭壇を築いた」といううわさを聞いた。三 イスラエルの人々が、それを聞くとひとしく、イスラエルの人々の全会衆はシロに集まって、彼らの所に攻め上ろうとした。

四 そしてイスラエルの人々は、祭司エレアザルの子ピネハスをギレアデの地のルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの半部族の所につかわし、五 イスラエルの各部族のうちから、父祖の家をつかさ、ひとりずつをあげて、合わせて十人のつかさたちを、彼と共に行かせた。これらはみなイスラエルの氏族のうちで、父祖の家のかしらたる人々であった。六 彼らはギレアデの地に行き、ルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの半部族に語って言った、「七 主の全会衆はこう言います、『あなたがたがイスラエルの神にむかつて、とがを犯し、今日、ひるがえって主に従うことをやめ、自分のために一つの祭壇を築いて、今日、主にそむこうとするのは何事か。八 七ペオルで犯した罪で、なお足りないとするのか。それ



がために主の会衆に災が下ったが、われわれは今日もお、その罪から清められていない。一八しかもあなたがたは、今日、ひるがえって主に従うことをやめようとするのか。あなたがたが、きょう、主にそむくならば、あす、主はイスラエルの全会衆にむかつて怒られるであろう。一九もしあなたがたの所有の地が清くないのであれば、主の幕屋の立っている主の所有の地に渡ってきて、われわれのうちに、所有の地を獲なさい。ただ、われわれの神、主の祭壇のほかに、自分のために祭壇を築いて、主にそむき、またわれわれをそむく者とならせないでください。二〇ゼラの子アカンは、のろわれた物について、とがを犯し、それがためイスラエルの全会衆に、怒りが臨んだではないか。またその罪によって滅びた者は、彼ひとりではなかった。』

二三その時、ルベンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの半部族は、イスラエルの氏族のかしらたちに答えて言った、三「力ある者、神、主。力ある者、神、主。主は知ろしめす。イスラエルもまた知らなければならぬ。もしそれがそむくことであり、あるいは主に罪を犯すことであるならば、きょう、われわれをゆるさないうでください。三三われわれが祭壇を築いたことが、もし主に従うことをやめるためであり、またその上に、燔祭、素祭をささげるためであり、あるいはまたその上に、酬恩祭の犠牲をささげるためであったならば、主みずから、

その罪を問いたしてください。二四しかし、われわれは次のことを考えてしたのです。すなわち、のちの日になつて、あなたがたの子孫が、われわれの子孫にむかつて言うことがあるかも知れません、『あなたがたは、イスラエルの神、主と、なんの関係があるのですか。二五ルベンの子孫と、ガドの子孫よ、主は、あなたがたと、われわれとの間に、ヨルダンを境とされました。あなたがたは主の民の特権がありません。』こう言つて、あなたがたの子孫が、われわれの子孫に、主を拝むことをやめさせるかも知れないので、二六われわれは言いました、『さあ、われわれは一つの祭壇を築こう。燔祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、二七ただあなたがたと、われわれとの間、およびわれわれの後の子孫の間に、証拠とならせて、われわれが、燔祭と犠牲、および酬恩祭をもつて、主の前で、主につとめをするためである。こうすれば、のちの日になつて、あなたがたの子孫が、われわれの子孫に、「あなたがたは主の民の特権がありません」とは言わないであろう。二八またわれわれは言いました、『のちの日に、われわれ、またはわれわれの子孫が、もしそのようなことを言われるならば、その時、われわれは言おう、「われわれの先祖が造った主の祭壇の型を、ごらんください。これは燔祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、あなたがたと、われわれとの間の証拠である。』二九主にそむき、ひるがえって今日、主に従うことを

やめて、われわれの神、主の幕屋の前にある祭壇のほか  
に、燔祭、素祭、または犠牲をささげるための祭壇を築  
くようなことは、決していたしません』。

三〇 祭司ピネハス、および会衆のつかさたち、すなわち  
彼と共に行ったイスラエルの氏族のかしらたちは、ルベ  
ンの子孫、ガドの子孫、およびマナセの子孫が語った言  
葉を聞いて、それをよしとした。三 三として祭司エレアザ  
ルの子ピネハスは、ルベンの子孫、ガドの子孫、および  
マナセの子孫に言った、「今日、われわれは、主がわれわ  
れのうちにいますことを知った。あなたがたが、主にむ  
かって、このとがを犯さなかったからである。あなたが  
たは今、イスラエルの人々を、主の手から救い出したの  
です」。

三三 こうして祭司エレアザルの子ピネハスと、つかさた  
ちは、ルベンの子孫、およびガドの子孫に別れて、ギレ  
アデの地からカナンの地に帰り、イスラエルの人々のと  
ころに行つて復命したので、三 三イスラエルの人々はそれ  
をよしとした。そしてイスラエルの人々は神をほめたた  
え、ルベンの子孫、およびガドの子孫の住んでいる国  
を滅ぼすために攻め上るうとは、もはや言わなかった。  
三 三ルベンの子孫とガドの子孫は、その祭壇を「あかし」と  
名づけて言った、「これは、われわれの間にあって、主が  
神にいますというあかしをするものである」。

第二三章 主がイスラエルの周囲の敵を、ことごとく

とく除いて、イスラエルに安息を賜わつてのち、久しく  
たち、ヨシュアも年が進んで老いた。ニヨシュアはイス  
ラエルのすべての人、その長老、かしらたち、さばきび  
と、つかさびとたちを呼び集めて言った、「わたしは年も  
進んで老人となった。三 三あなたがたは、すでにあなたが  
たの神、主が、このもろもろの国びとに行われたすべて  
のことを見た。あなたがたのために戦われたのは、あな  
たがたの神、主である。四 見よ、わたしはヨルダンから、  
日の入る方、大海までの、このもろもろの残っている国  
と、すでにわたしが滅ぼし去つたすべての国々を、く  
じをもつて、あなたがたに分け与え、あなたがたの各部  
族の嗣業とさせた。五 あなたがたの前から、その国民を  
打ち払い、あなたがたの目の前から追い払われるのは、  
あなたがたの神、主である。そしてあなたがたの神、主  
が約束されたように、あなたがたは彼らの地を獲得であ  
ろう。六 それゆえ、あなたがたは堅く立って、モーセの  
律法の書にしるされていることを、ことごとく守つて行  
わなければならない。それを離れて右にも左にも曲つて  
はならない。七 あなたがたのうちに残っている、これら  
の国民と交じつてはならない。彼らの神々の名を唱えて  
はならない。それをさして誓つてはならない。またそれ  
に仕え、それを拜んではならない。八 ただ、今日までし  
てきたように、あなたがたの神、主につき従わなければ  
ならない。九 主が大いなる強き国民を、あなたがたの前

から追ひ払われた。あなたがたには今日まで、立ち向かうことのできる者は、ひとりもなかった。二あなたがたのひとりとは、千人を追ひ払うことができるであろう。あなたがたの神、主が約束されたように、みずからあなたがたのために戦われるからである。三それゆえ、あなたがたは深く慎んで、あなたがたの神、主を愛さなければならぬ。四しかし、あなたがたがもしひるがえって、これらの国民の、生き残って、あなたがたの中にとどまる者どもと親しくなり、これと婚姻し、ゆききするならば、五あなたがたは、しかと知らなければならぬ。あなたがたの神、主は、もはや、これらの国民をあなたがたの前から、追ひ払うことをされないのであらう。彼らは、かえって、あなたがたのわなとなり、網となり、あなたがたのわきに、むちとなり、あなたがたの目に、とげとなつて、あなたがたはついに、あなたがたの神、主が賜わつたこの良い地から、滅びうせるであらう。

六見よ、今日、わたしは世の人のみな行く道を行こうとする。あなたがたがみな、心のうちにまた、肝に銘じて知つてゐるように、あなたがたの神、主が、あなたがたについて約束されたものもろの良きことで、一つも欠けたものはなかった。みなあなたがたに臨んで、一つも欠けたものはなかった。七しかし、あなたがたの神、主が、あなたがたについて約束された、もろもろの良きことが、あなたがたに臨んだように、主はまた、もろもろの悪い

ことをあなたがたに下して、あなたがたの神、主が賜わつたこの良い地から、ついに、あなたがたを滅ぼし断たれるであらう。八もし、あなたがたの神、主が命じられたその契約を犯し、行つて他の神々に仕え、それを拝むならば、主はあなたがたにむかつて怒りを発し、あなたがたは、主が賜わつた良い地から、すみやかに滅びうせるであらう。

第二十四章 ヨシュアは、イスラエルのすべての部族をシケムに集め、イスラエルの長老、かしら、さばきびと、つかさたちを召し寄せて、共に神の前に進み出した。九そしてヨシュアはすべての民に言つた、「イスラエルの神、主は、こう仰せられる、『あなたがたの先祖たち、すなわちアブラハムの父、ナホルの父テラは、昔、ユフラテ川の向こうに住み、みな、ほかの神々に仕えていたが、十わたしは、あなたがたの先祖アブラハムを、川の向こうから連れ出して、カナンの全地を導き通り、その子孫を増した。わたしは彼にイサクを与え、十一イサクにヤコブとエサウを与え、エサウにはセイルの山地を与えて、所有とさせたが、ヤコブとその子供たちはエジプトに下つた。十二わたしはモーセとアロンをつかわし、またエジプトのうちに不思議をおこなつて、これに災を下し、その後あなたがたを導き出した。十三わたしはあなたがたの父たちを、エジプトから導き出し、あなたがたが海にきたとき、エジプトびとは、戦車と騎兵とをもつて、あな



たがたの父たちを紅海に追ってきた。七そのとき、あなたがたの父たちが主に呼ばわったので、主は暗やみをあなたに傾けて彼らをおおわれた。あなたがたは、わたしがエジプトでしたことを目で見えた。そして長い間、荒野に住んでいた。八わたしはまたヨルダンの向こう側に住んでいたアモリびとの地に、あなたがたを導き入れた。彼らはあなたがたと戦ったので、わたしは彼らをあなたがたの手に渡して、彼らの地を獲させ、彼らをあなたがたの前から滅ぼし去った。九ついで、モアブの王チツボルの子バラクが立つて、イスラエルに敵し、人をつかわし、ベオルの子バラムを招き、あなたがたをのろわせようとしたが、一〇わたしがバラムに聞こうとしなかったので、彼は、かえって、あなたがたを祝福した。こうしてわたしは彼の手からあなたがたを救い出した。二そしてあなたがたは、ヨルダンを渡って、エリコにきたが、エリコの人々はあなたがたと戦い、アモリびと、ペリジびと、カナンびと、ヘテびと、ギルガシびと、ヒビびと、およびエブスびとも、あなたがたと戦ったが、わたしは彼らをあなたがたの手に渡した。二三わたしは、あなたがたの前に、くまばちを送って、あのアモリびとのふたりの王を、あなたがたの前から追い払った。これはあなたがたのつるぎ、または、あなたがたの弓によってではなかった。二三そしてわたしは、あなたがたが自分で勞しなかった地

を、あなたがたに与え、あなたがたが建てなかつた町を、あなたがたに与えた。そしてあなたがたはいまその所に住んでいる。あなたがたはまた自分で作らなかつたぶどう畑と、オリブ畑の実を食べている。

一四それゆえ、いま、あなたがたは主を恐れ、まことと、まごころと、真実とをもって、主に仕え、あなたがたの先祖が、川の向こう、およびエジプトで仕えた他の神々を除き去って、主に仕えなさい。一五もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないのなら、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選りなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。

一六その時、民は答えて言った、「主を捨てて、他の神々に仕えるなど、われわれは決していたしません。一七われわれの神、主がみずからわれわれと、われわれの先祖とを、エジプトの地、奴隸の家から導き上り、またわれわれの目の前で、あの大きいなるしるしを行い、われわれの行くすべての道で守り、われわれが通つたすべての国民の中でわれわれを守られたからです。一八主はまた、この地に住んでいたアモリびとなど、すべての民を、われわれの前から追い払われました。それゆえ、われわれも主に仕えます。主はわれわれの神だからです」。

一九しかし、ヨシュアは民に言った、「あなたがたは主に

仕えることはできないであろう。主は聖なる神であり、ねたむ神であつて、あなたがたの罪、あなたがたのときを、ゆるされぬからである。二〇もしあなたがたが主を捨て、異なる神々に仕えるならば、あなたがたにさいわいを下されたのちにも、ひるがえつてあなたがたに災をくだし、あなたがたを滅ぼしつくされるであろう。二一民はヨシュアに言った、「いいえ、われわれは主に仕えます」。二二そこでヨシュアは民に言った、「あなたがたは主を選んで、主に仕えると言つた。あなたがたみずからその証人である」。彼らは言つた、「われわれは証人です」。二三ヨシュアはまた言つた、「それならば、あなたがたのうちにある、異なる神々を除き去り、イスラエルの神、主に、心を傾けなさい」。二四民はヨシュアに言つた、「われわれの神、主に、われわれは仕え、その声に聞きしたがいます」。二五こうしてヨシュアは、その日、民と契約をむすび、シケムにおいて、定めと、おきてを、彼らのために設けた。二六ヨシュアはこれらの言葉を神の律法の書にしるし、大きな石を取つて、その所で、主の聖所にあるかしの木の下にそれを立て、二七ヨシュアは、すべての民に言つた、「見よ、この石はわれわれのあかしとなるで

あろう。主がわれわれに語られたすべての言葉を、聞いたからである。それゆえ、あなたがたが自分の神を捨てることのないために、この石が、あなたがたのあかしとなるであろう」。二八こうしてヨシュアは民を、おのその嗣業の地に帰し去らせた。

二九これらの事の後、主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ、三〇人々は彼をその嗣業の地のうちのテムナテ・セラに葬つた。テムナテ・セラは、エフライムの山地で、ガアシ山の北にある。

三一イスラエルはヨシュアの世にある日の間、また主がイスラエルのために行われたもろもろのことを知つていて、ヨシュアのあとに生き残つた長老たちが世にある日の間、つねに主に仕えた。

三二イスラエルの人々が、エジプトから携へ上つたヨセフの骨は、むかしヤコブが銀百枚で、シケムの父ハモルの子らから買い取つたシケムのうちの地所の一部に葬られた。これはヨセフの子孫の嗣業となつた。

三三アロンの子エレアザルも死んだ。人々は彼を、その子ピネハスに与えられた町で、エフライムの山地にあるギベアに葬つた。